

令和2・3年度 岡山県小学校教育研究会道德部会 研究指定

第27回岡山県小学校道德教育研究大会



令和3年10月21日(木)
吉備中央町立大和小学校

はじめに

本校は、岡山県小学校教育研究会道徳部会の指定を受け、令和2・3年度の2年間にわたり、研究主題を「自他のよさを認め合い 自己の生き方をひろげる児童の育成」とし、副題として「主体的・対話的で深い学びとなる道徳の授業づくりを通して」を掲げ、研究に取り組んでまいりました。

本来でしたら、県内の先生方をお迎えし、学びの機会にすると共に、吉備中央町の魅力にもふれていただく予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、願いは叶いませんでした。学校教育は経験したことのない様々な判断や対応が必要となりました。それは、子どもたちの命を守ることを常に優先しながらも、子どもたちの学びを止めない主体的・対話的で深い学びを実現することでもあります。先の見えない中、大きな課題に立ち向かうことは困難なことではありますが、今この状況だからこそ、知恵を結集し、共に乗り越え、子どもたちの新しい未来を切り拓いていくことができると考えております。

道徳科の授業では、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めていくことが求められています。そして、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、子どもたちが多様な考え方や感じ方に接し、多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」が大切になります。そこで、子どもたちが主体的・対話的に「考え議論する道徳の授業」とはどのようなものか、道徳教育の要である道徳の授業づくりを中心に研究を進めてまいりました。特に、授業のねらいに迫るための発問や切り返し、学習形態、手立ての工夫等について協議を重ね、指導法の工夫や改善を行ってきました。子どもたちにも少しずつ変容が見られるようになり、研究の成果が形となりつつあります。また、学校全体で道徳教育を推進する体制を整え、研究を進めることができましたことは、本校にとって今後の道徳教育を考える上でたいへん有意義な機会となりました。

研究は、2年目を迎えましたが、まだまだ道半ばであり、課題も多く力不足を痛感しております。公開授業、実践発表等から、皆様より忌憚のないご意見、ご指導をいただき、更に研究を深めてまいりたいと考えております。そして、本研究での学びが県内の先生方の実践の参考や一助になれば幸いです。

最後になりましたが、研究の推進にあたり、指導案検討や授業実践について、岡山県小学校教育研究会道徳部会会長松原雅恵校長先生をはじめ、岡山県道徳部会の先生方、及び吉備中央町教育委員会のご指導をいただきました。心より感謝申し上げます。

令和3年10月21日

吉備中央町立大和小学校
校長 藤原陽子

目次

I	学校の概要	1
	(1) 学校や地域の概要	
	(2) 児童の実態	
	(3) 学校教育目標	
II	研究主題について	2
	(1) 研究のテーマ	
	(2) 主題設定の理由	
	(3) 研究主題の捉え方	
III	研究の内容	3
	(1) 重点目標に基づく道徳教育の推進	
	(2) 道徳科の授業づくり	
	(3) 環境づくり	
	(4) 道徳の評価の仕方	
	(5) 道徳アンケート・hyper-QUの活用	
IV	実践事例	18
	【資料】	
	・道徳教育の全体計画	61
	・全体計画別葉	62
	・道徳アンケート	74

I 学校の概要

I 学校の概要について

(1) 学校や地域の概要

吉備中央町は、岡山県のほぼ中央の吉備高原に位置している。本校は吉備中央町の南西部に位置し、名勝豪溪の北に位置する隆起準平原で、吉備高原都市に隣接する周囲を豊かな自然に囲まれた農村地域にある。学校規模は各学年1学級と特別支援学級2学級の8学級、児童数61名の小規模校である。地域や保護者の教育に対する関心は高く、教育活動に理解が得られやすい。また、自然や地域教材、地域人材も豊富で、放課後子ども教室の開催・地域ボランティアによる支援など、様々な教育活動に生かされている。

(2) 児童の実態

本校の児童は素直で思いやりがあり、誰にでも優しく声をかけることができる。異学年交流も多く、休み時間には学年の枠を越えてよく遊んでいる。また、高学年が低学年に様々なことを教える風土ができており、縦割り班での清掃活動等も協力して熱心に取り組むことができている。一方で、受け身になりやすく、自分から発信して働きかけることが苦手な実態もある。また、苦手なことにも諦めずに立ち向かう粘り強さや、物事をさらに良くしようとする向上心が足りない一面もある。

(3) 学校教育目標

現在の社会状況や前述の学校や地域の概要、児童の実態を踏まえ、本校の学校教育目標を「自ら学び 心豊かに たくましく生きる 大和っ子の育成」とした。そして、この目標を具現化するために、目指す児童像を次のように設定した。

- 自ら学び、自ら考え、行動する子【自主】
- 仲良く、思いやりのある子【協力】
- まじめに、最後までがんばる子【誠実】

そして、目指す児童像に迫るためのスローガンを次のように設定した。

令和3年度スローガン

チャンス！チャレンジ！チェンジ！ 自分から そして ともに

Ⅱ 研究主題に ついて

II 研究主題について

(1) 研究のテーマ

「自他のよさを認め合い 自己の生き方をひろげる児童の育成」
～主体的・対話的で深い学びとなる道徳の授業づくりを通して～

(2) 主題設定の理由

道徳の授業では、児童が友達と協働的に話し合ったり、教材を通して様々な生き方に触れたりする中で、多様性を尊重しながら自分の道徳性を高めていくことが求められている。そこで自分のこととして課題意識をもち、児童同士が主体的に対話しながら学びを深めていける道徳の授業にしていきたいと考え、昨年度から道徳の授業づくりを中心に研究を行ってきた。そして本校の児童の実態として、自分の考えを進んで発信しようとしたり、さらに良くしようと話し合ったりすることに消極的な傾向がある。児童が自分との関わりで道徳的価値を捉え、価値の理解のもと、物事を多面的・多角的に考えることができる道徳の授業「考え議論する道徳の授業」を通して、児童が自己の生き方をひろげられるような授業づくりをするために本主題を設定した。

(3) 研究主題の捉え方

ここで言う「自己の生き方をひろげる」とは、授業の中で児童が自分の思いを語り、今までの自分を振り返り、これからの自分について考えることである。「今まで意識していなかったけれど、自分にとってこれは大切だな。」「今までの自分はできていたから、これからも自信をもって相手のことを考えた行動しよう。」「こうするのは大切だけれど、難しいな。でも、みんなのためにがんばってみよう。」「友達はこんなとき、こう感じるんだな。しばらく経つと自分もそう思うかな。」という思いを子ども達もてる授業を目指す。

また、課題意識を子ども自身のものにするすることで、子どもが主体的に学ぶことができると考える。いろいろな考えの友達と語り合ったり、教材を通していろいろな生き方に触れたりしながら学びを深めていく授業の中で、子どもは自分の成長を意識し、意欲的に、より豊かな生き方ができるようになると考える。人間理解・他者理解に迫ることができる活動を大切にして、子ども主体で、子ども自身がつないでいける道徳の学習にしていきたい。

Ⅲ 研究の内容

Ⅲ 研究の内容について

(1) 重点に基づく道徳教育の推進

本校の道徳教育の重点目標は「1 自分で考え、正しく判断して実行し、粘り強く成し遂げる子どもの育成」(A 主として自分自身に関すること)及び「2 だれに対しても、温かい心で接し、相手の立場に立って考え、思いやりをもって行動する子どもの育成」(B 主として人との関わりに関すること)である。

【学年の重点目標】

上記(1)の重点目標を達成するため、「A 主として自分自身に関すること」と「B 主として人との関わりに関すること」を軸に据え、成長段階に即して低・中・高学年それぞれの目標を定めている。

〈低学年〉

- 自分がしなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。(A)
- 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。(B)

〈中学年〉

- 自分でしようと思ったことは、粘り強くやり遂げる。(A)
- 相手のことを思いやり、進んで親切にする。(B)

〈高学年〉

- より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。(A)
- だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。(B)

【全体計画 別葉 重点に関わる指導表の見直し】

新教科書配付にあわせて、各学年で、それぞれの教科や特別活動と重点目標との関連が分かりやすいように、内容項目を記載して別葉を作成している。

【成果と課題】

〈成果〉

- 研究テーマを意識した学習指導案検討や研究協議が活発に行われた。特に、「主体的」「対話的」「深い学び」を明記したことで、ねらいや手立てが明確になり、焦点化や切り返しの発問を全体で練り上げたり、公開授業後の課題を次に生かしたりすることにつながった。
- 掲示物の作成によって、視覚的に道徳的価値を積み上げることで、自他のよさを全員で認め合い、自信をもって様々なことに取り組む姿が見られるようになった。

〈課題〉

- 道徳の学習に関するアンケート(全学年・学期2回)やhyper-QUを行ったが、研究協議での活用にとどまった。更なる活用を目指し、授業改善や生活改善につなげていきたい。

(2) 道徳科の授業づくり

主体的・対話的で深い学びとなる道徳の授業づくりを目指し、【導入】【展開】【終末】で次のような工夫を行った。

【導入】

アンケートや事例、掲示物などを活用して今までの自分の生活を具体的に振り返らせながら、「こうなりたい!」という子供たちの願いをめあてにつなげるようにした。自分のこととして課題意識をもちながら、行為を正していくのではなく、それにつながる心や気持ちを考えていくようにした。

質問 回答

道徳アンケート

答えてください。

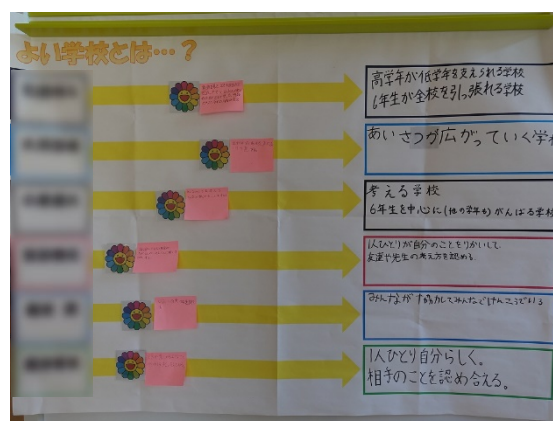
自由って何？

記述式テキスト（長文回答）

友達の自由帳に落書きをするのはいい？ *

いい

いけない



〈Google forms でのアンケート〉 R 3. 5 年生
結果が一覧となっていたり、グラフとして表示されたりするので共有しやすい。

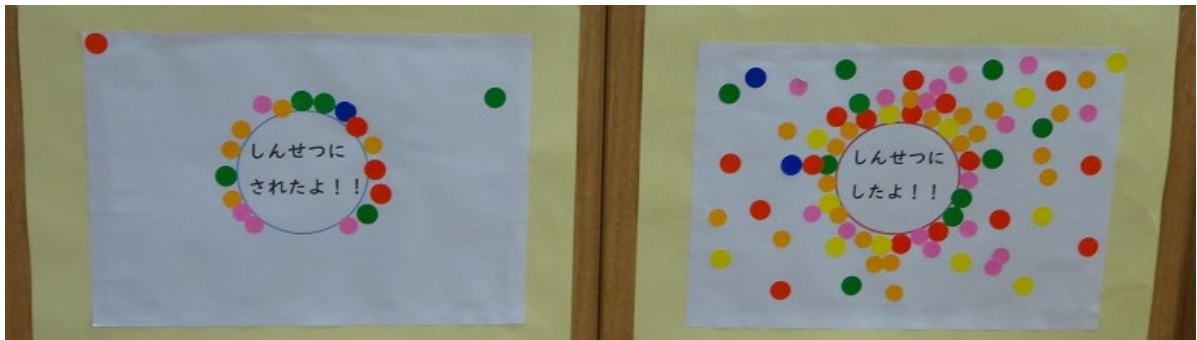
〈アンケート結果確認〉 R 2. 6 年生
アンケート結果は、導入部分だけでなく、展開や終末の場面でも活用する。

これは自由にしていいことと言えるだろうか？

自由でしょう	どうかかわらない	自由にしてはいけない

<p>目がさめてから昼まで家でゲーム、昼からねるまで動画を見つづけよう!</p>	<p>朝6時から友だちの家に行って、夜12時まで、友だちとずっとゲームばかりやろう!</p>	<p>友だちとやったゲームがおもしろかった! よし! 勝手に持って帰ろう!</p>
---	---	--

〈事例の確認〉 R 2. 5 年生
事例を分類したり、その時の気持ちを共有したりすることで、人によって感じ方や考え方は違うということにも気づかせる。

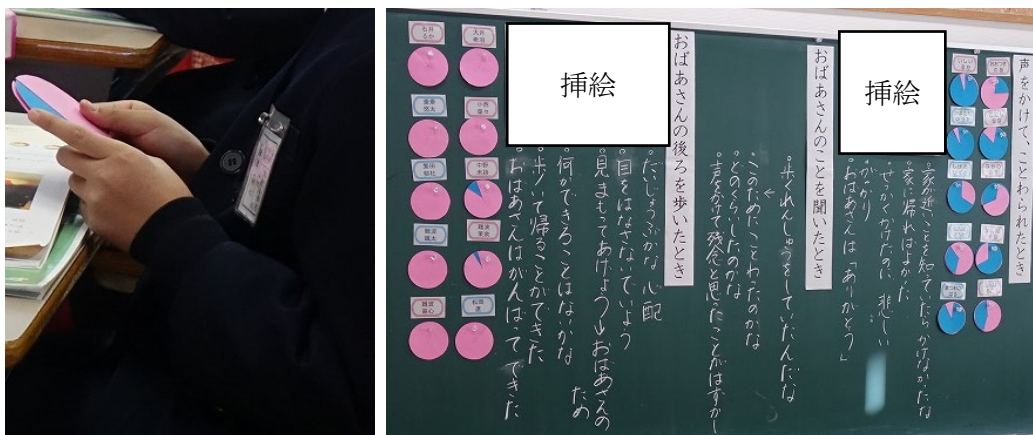


〈掲示物〉 R 2. 1 年生

普段の生活で、親切にされたときや親切にしたときにシールを貼っていく。授業の導入でも活用し、そのときの気持ちや考えを想起させることで、日常生活と道徳の授業をつなげることができた。

【展開】

自分の考えを表現したり、友達と考えを共有したりする手立てとして、心情円を使ったり役割演技を行ったりした。また、ペア活動やグループ活動が十分に行えないため、中心発問ではタブレットも積極的に活用した。発表の際は、友達の意見に対して自分の意見を述べたり、質問したりするなど、児童同士で意見をつなげていくことができるように、話型を提示して意識して取り組ませるようにした。その中で、自分の過去の経験とつなげて考えたり、自分のこととして考えたりすることができるようにした。



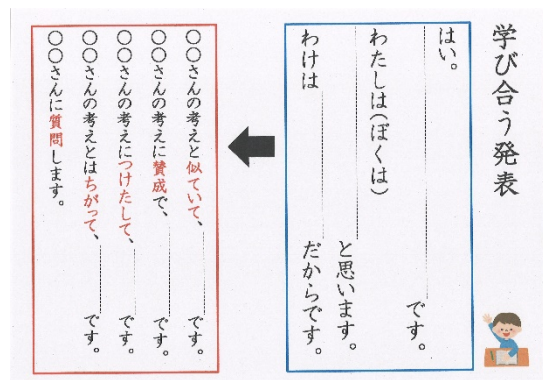
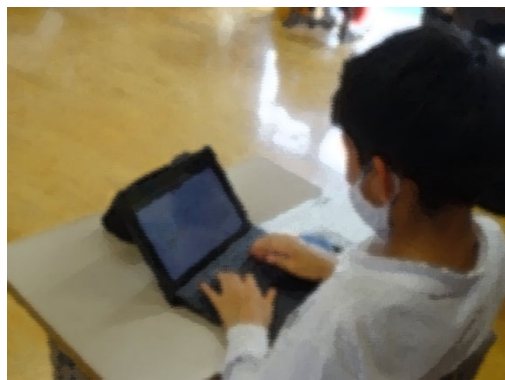
〈心情円〉 R 2. 3, 4 年生

考えの操作化・共有化に有効。自分の考えの変化や友達の考えを視覚的に理解することができる。その中で、自分と違うことや気になったことを質問したり、意見を述べたりしていく。また、自分の考えが変化した根拠も話し合うことができる。



〈役割演技〉 R 3. 1, 2年生

登場人物になりきって演じることで、本音が語りやすくなる。また教師も全力で演じることで、教材の世界観に引き込ませることができる。役割演技は、全体(他の児童)も巻き込んで行うようにする。



〈タブレットの活用・話型〉 R 3. 6年生

JamboardやGoogle サイトなどを活用することで、発表しなくてもお互いの考えを共有することができる。それをもとに、友達の見解へのつけ足しや反対、質問などを行っていくことで、より活発な意見の交流ができる。

【終末】

めあてに対するまとめを一人一人が自分の言葉で表現し、「大和心の木」に掲示していった。振り返りでは、今までのこととその時の気持ち、そしてこれからのことまで考えることができた。



〈写真の活用〉 R 2. 6 年生
掲示があると、今までのことを想起しやすい。



〈まとめ〉 R 3. 1, 3 年生
価値を押し付けていくのではなく、児童自身の言葉でまとめる。授業ごとにまとめて掲示することで、いつでも振り返りや実践につなげることができる。



〈振り返り〉 R 3. 2, 6 年生
教材や学級に合わせて、道徳ノートやワークシートを活用する。

成果

- 導入を工夫することにより児童の願いや思いをめあてにつなげることができ、課題意識をもたせることができた。行為ではなく、そのもとになる心や気持ちを考えさせ、中心発問では心情円を活用したり役割演技を行ったりすることで、多面的・多角的に意見を共有することができた。
- 主人公の気持ちを考えるときは、国語のように叙述や描写をもとに考えるのではなく、自分だったらどうするかを考えたり、過去の経験とつなげて考えたりすることができるようになった。児童への道徳アンケートの結果からも、道徳の時間に「自分だったら」と考えることができている児童が増えていた。またそう答えた児童ほど、「道徳は生活に役立つ」と感じていた。
- 話型を掲示して対話のやり方を意識させ、全教科で実践していくことで、自分の意見を発表するだけでなく、友達の意見と比較して付け加えたり、質問したりするなど、児童同士で発言をつなげていくことができるようになった。児童への道徳アンケートの結果からも、道徳の時間に「なるほど」と思うことがある児童が増えていた。

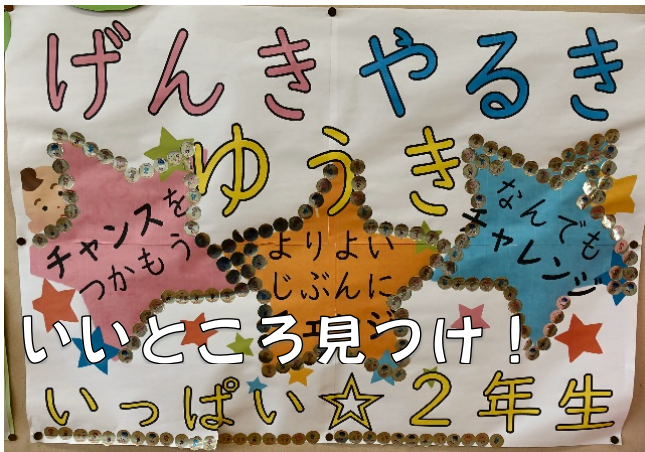
課題

- 心情円の活用や役割演技などは思考を促すための手立てであり、それを行うことが目的ではない。手立てがなくても本音で多面的・多角的に語り合える児童を育成していきたい。
- 児童への道徳アンケートで、「自分にはよいところがありますか」の質問に対して、全員が肯定的に回答することができるように、道徳の時間だけでなく、日常生活と結び付けた道徳教育を意識していくことが必要である。
- もっと活発な道徳の授業になるように、教師が行っている補助発問や繰り返し発問などを、児童同士で行っていけるようにしていく必要がある。

(3) 環境づくり【教育活動全体を通して】

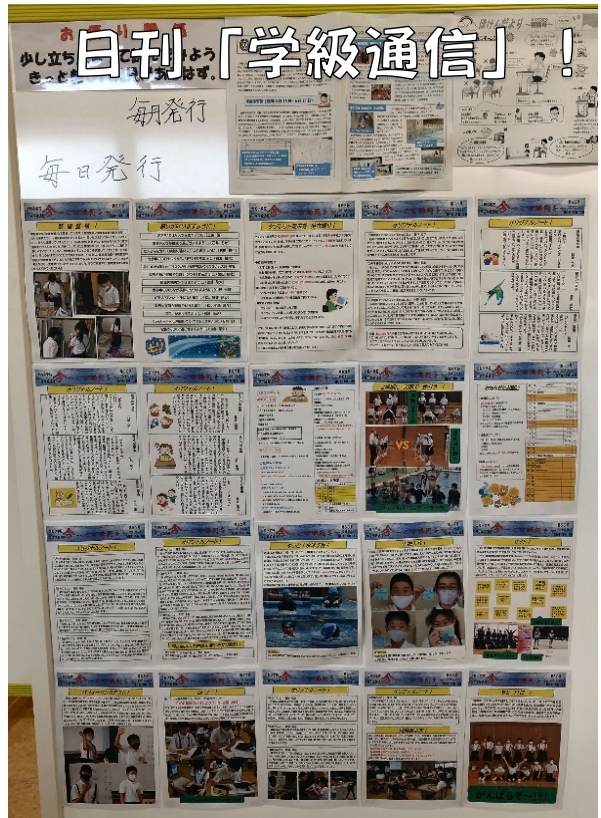


日々の生活で、子どもたちが「親切にした」「親切にされた」ときにシールを貼り、やさしさが繋がりが、広がっていくことが実感できるようにした。



その日見つけた友達のよいところを帰りの会で発表する。そして「元気」「やる気」「勇気」に発表内容を仲間分けしてシールを貼り、日々の成長を視覚的に確認できるようにしている。

学級通信を毎日発行することで、現在の自分の成長を自覚し、未来の理想とする自分に繋げることができるようにしている。



「答えは1つでなく、いろんな考え方があるということ子どもへ伝えたい」と、担任がおすすめの本コーナーを設置している。



クラス全員の思いが込められた学級目標を大きく掲示している。一人一人を大切にし、「全力」を合い言葉に前進している。



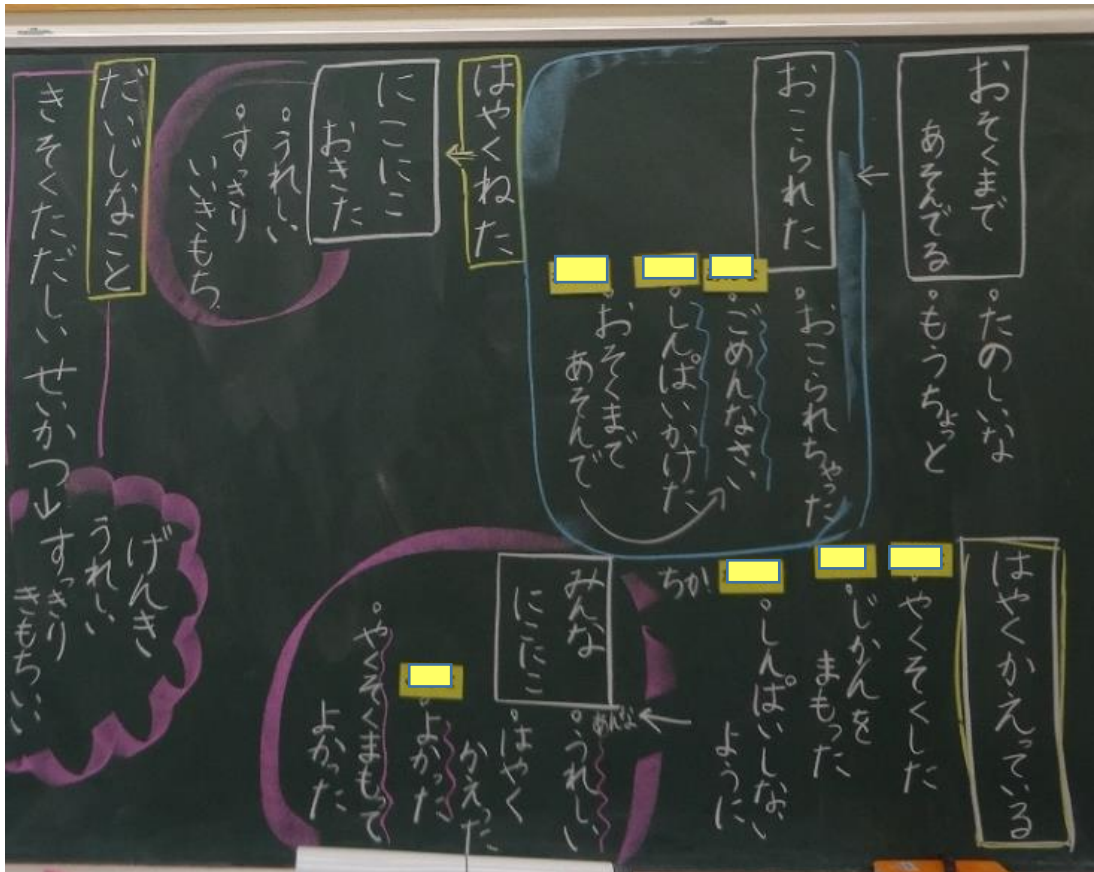
大和心の木

「大和心」とは、「人の身になって考えよう」という大和小出身の岡崎嘉平太さんの言葉がもとになっている。自分は他人のおかげで生きていることを理解し、自分を愛するのと同じように他人も尊重し愛そうとする心、それが「大和心」である。

子どもたちは毎時間、学習のまとめを内容項目ごとに色分けされた葉に書き込む。4月は枝しかなかった木がたくさん葉を付け、ぐんぐん大きく成長していく。子どもの心と同じように・・・またこの「大和心の木」は、どの学年も教室後ろの掲示板にある。日々の生活・学校行事等へ、どんな心の在り方で取り組めばよいか過去の自分や友達の言葉から学ぶことができ、未来を照らす道しるべとなっている。

〈板書による情報共有〉 低学年

児童が考えを発言する際、ネームプレートを貼って板書を行い、授業後に写真で残し記録とする。



【成果と課題】

成果

- 道徳ノートに自分の考えや振り返りを書くことで、授業における道徳性に係る成長の様子や学習状況を継続的に見とることができた。また、書くことを積み重ねることで、児童が自分の書いたことを振り返ったり、道徳性を深めるきっかけにしたりすることができた。ワークシートは、形式を工夫することで自分の考えを書きやすくすることができた。
- 一人1台タブレットが使える環境が整ったため、Google workspace のサイトやジャムボードを活用して考えを共有することができた。それを保存しておくことで、児童の考えや成長を把握する手立てとすることができた。

課題

- 書くことが苦手な児童にとっては、道徳ノートやワークシートへの記入が難しいことがあった。そのため、書くこと以外の方法で学習の記録を残す工夫が必要であると感じた。

(5) 道徳アンケート・hyper - QU の活用

道徳科の学習や学校生活における児童の変容を見取り、授業改善に生かしたり、児童の伸びや改善点を探ったりするために、道徳アンケートやhyper - QUを全学年で行った。

【道徳アンケートの実践】

○道徳アンケートは、合計3回行った。

第1回目：令和2年9月、第2回目：令和3年3月、第3回目：令和3年7月

【道徳アンケートの質問項目】

- ① 道徳の時間は好きですか。
- ② 道徳の時間は生活に役立つと思いますか。
- ③ 道徳の時間に「自分だったら」と考えていますか。
- ④ 道徳の時間に「なるほど」と思ったことがありますか。
- ⑤ 道徳の時間に「これからは」と考えていますか。
- ⑥ 自分にはいいところがあると思いますか。
- ⑦ 友達にはいいところがあると思いますか。

○道徳アンケートの結果

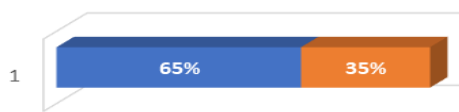
〈学校全体における成果〉

①「道徳の時間は好きですか。」 肯定的回答…R2年度65%→R3年度78%

・2週間に1回程度学習指導案検討や授業づくりについて研修会を実施し、校外の先生方からも多くのアドバイスをいただくことができた。週1回の道徳科の授業を大切にすることで、児童にとって「考える楽しさ」を実感できる授業実践が可能となり、児童の意識の変容につながったのではないかと考えられる。

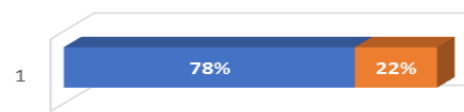
道徳アンケート

■ 1回全体 肯定的回答
■ 1回全体 否定的回答



道徳アンケート

■ 3回全体 肯定的回答
■ 3回全体 否定的回答



〈各学年における成果〉

・第6学年⑥「自分にはいいところがあると思いますか。」

肯定的回答 R2年度67%→R3年度100%

今年度スローガン「チャンス！チャレンジ！チェンジ！自分からそしてともに」を掲げ、一人一人が他人任せにせず、自分ごととして様々なことに取り組むように声かけをした。活躍できる場면을意図的に設定したり、過程や伸び達成状況をしっかり褒めたりして、周りにも紹介し広げていった。

・R3年度全国学力学習状況調査児童質問紙「自分にはよいところがあると思う。」

肯定的回答87.6%（全国平均76.9%）

【hyper-QUの実践】

○hyper-QUは、合計2回行った。

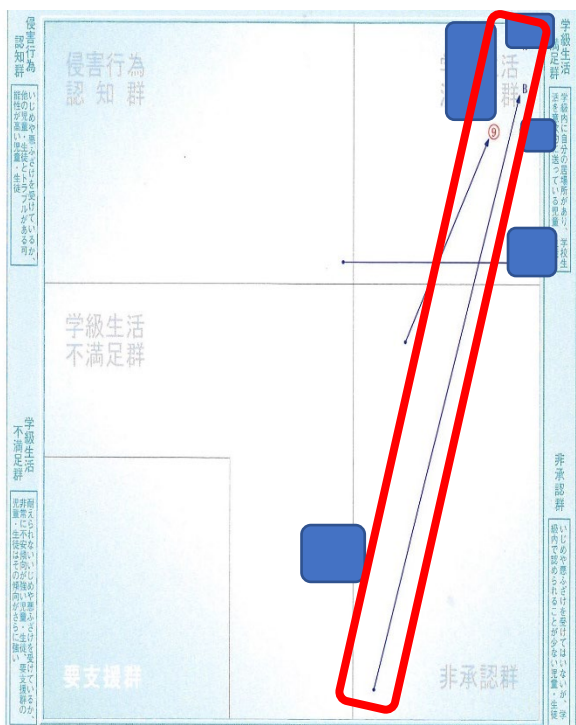
第1回目：令和2年12月、第2回目：令和3年7月

〈学校全体における成果〉

- ・「学習意欲」に関する項目で、肯定的な回答が多かった質問事項
 - 「難しい問題もすぐにあきらめないで考えている」
 - 「勉強ができるようになろうとがんばっている」
 - 「勉強でできなかったことができるとうれしい」
- ・「友達関係」に関する項目で、肯定的な回答が多かった質問事項
 - 「失敗した時、すぐにあやまっている」
 - 「班活動で友達が失敗した時はゆるしている」
 - 「友達に『ありがとう』と言っている」
 - 「友達が何かをうまくした時、ほめている」
 - 「クラスにはいい人だな、すごいと思う友達がいる」

〈各学年における成果〉

- ・第5学年男児（A児）
 - 「非承認群」だったが、「学級生活満足群」になった。
- ・第6学年女児（B児）
 - 「侵害行為認知群」だったが、「学級生活満足群」になった。



〈A児（第5学年男児）への支援〉

短所が目立ってしまう児童だった。本人も周りも「短所」に目がいってしまっていた。道徳の学習においては、「個性の伸長」の内容項目で、「短所を改めていく」ということだけではなく、「長所を伸ばす」ことに目を向けることができるように仕掛けた。お互いの良さを言語化して共有することはもちろん、自分自身のよさもしっかりと言語化する場面を増やした。何度も何度も表現させるということが大切だと感じた。また、「短所」は誰にでもあり一人一人違うということを学級全体に伝え、「公平」に関わることの大切さを伝え続けたことで、安心して学級ですごすことができるようになったのではないかと思います。

〈A児（第5学年男児）の変容〉

週末の宿題にその時の考えや思いを表現する「オリジナルノート」に取り組ませている。「オリジナルノート」は学級通信で紹介していった。当初「自分のよさ」というテーマで記述するように課したが、A児なかなか自分のよさに気づくことができなかった。学級全体には「5年生のよさ」「友達のよさ」とテーマを与えていくことで、他人のよさに気づくようになるとともに、少しずつ友達からもA児は承認されるようになった。

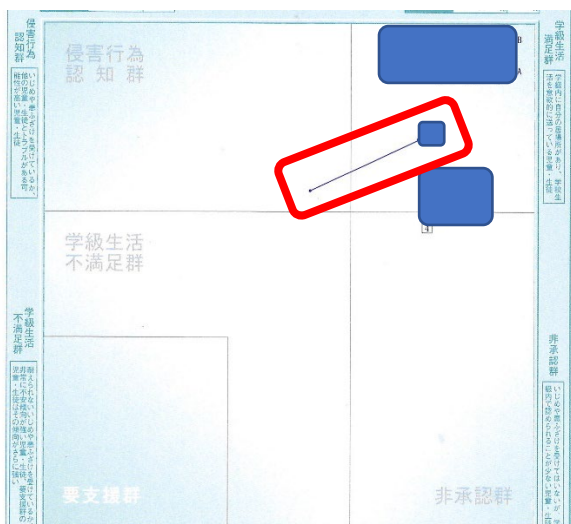
「5年生のよさ」5年生のよさは2つあります。1つ目は、いつも元気なところ。毎日元気に学校に来て、休み時間に元気に外で遊んでいます。2つ目はいつも笑顔なところ。友達や先生のおかげで、いつも笑顔で過ごすことができます。

「最近の出来事」「おにごっこよせて。」「いいよ。」いつも休み時間におにごっこをしている。晴れの日をしている。おにが多い日も少ない日もあって楽しい。〇〇先生がおにになるとつかまる人が多いけど、みんなすぐに助けている。ぼくはみんなにあまりつかまらないけど、〇〇先生にはすぐにつかまる。おにごっこは楽しいので毎日やりたい。

「自分のよさ」自分のよさには2つあります。1つ目は足が速くなったことです。4年生のときは8.7秒だったけど、5年生になったら8.0秒になって、0.7秒も速くなってうれしかったです。2つ目はてんかやドッジボールなどで、速いボールを投げることができるようになったということです。そのおかげで、友達にたくさん当てるできるようになりました。いろいろと成長できてうれしいです。

【A児のオリジナルノートより】

次第に苦手としていた「自主学习」にも友達のノートや課題を参考にすることで積極的に取り組むようになり、陸上運動の記録を更新したりすることで自信をつかみ、教育活動全体の中で前向きに取り組むようになった。



〈B児（第6学年女子）への支援〉

低学年のころから、相手がどう思うかを考えずにはっきり自分の考えを伝えるところがあった。また、傷つきやすい面もあり孤立しがちだった。道徳の学習においては、「友情・信頼」の内容項目で、「仲良くする」というよりは、同じクラスの仲間として誰とでも話し合えることの良さを学級全体に価値づけた。そうすることで、学級全体の仲間意識が徐々に向上し、安心して学級で過ごせるようになったのではないかと考える。

〈課題〉

- ・「学級生活満足群」にいない児童や、前回よりも値が下がっている児童もいる。
 - ・友達や担任から認められているという自己有用感が低い。
 - ・「明るく楽しい」と思える雰囲気が薄い。
 - ・児童同士にあいさつが通っていない。
 - ・難しい課題にぶつかると、「分からない」「できない」などマイナス発言がある。
 - ・自分から積極的に友達と関わろうとしない。
 - ・自分から発信することへの苦手意識がある。
 - ・教師の見え方と児童の心の中とのギャップがある。
 - ・仲間意識が低い。

〈今後の取組〉

- ・担任自身が児童一人一人との関わり方を見直す。
指導したことに対して、評価をし、承認する意識をもつ。
- ・児童同士のつながりをもたせる活動に取り組む。
「いいところ見つけ」や「ありがとうカード」を活用し、自分や友達の良さを見える化する。
- ・明るく楽しい雰囲気づくりのために、クイズやミニゲームなど、どんな児童でも楽しめる活動を朝の時間に取り入れる。
- ・児童の「楽しさ」「笑顔」を常に考える。
特に、学校生活の中で1番長い時間である「授業」を楽しく改善する。
- ・叱らなくても良い環境を作ろうとする意識をもつ。
「聞きたい」「やりたい」と思うような授業づくりや話し方を工夫する。
- ・自分自身のよさを自分で書いたり発表したりする機会を増やし、自己肯定感を高める。
- ・毎月行っている「たのし〜と」や教育相談を通して友達関係を把握し、学級経営に生かす。

IV 实践事例

第1学年 教材名「はしのうえの おおかみ」

(B 親切, 思いやり) 日本文教出版

令和2年9月9日(水) 5校時 指導者 米山 知子

- 1 主題名 「しんせつはいいきもち」 B「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」
教材名 「はしのうえの おおかみ」 (日本文教出版)

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

親切がよいことだとわかっているとしても、心のどこかに人に意地悪をすると楽しい、おもしろいと感じる気持ちがあることは、ないとは言えない。状況によっては、その気持ちが強まり、表に出てきてしまうこともある。しかし、相手に親切にし、喜んだ姿を見たときの喜びは後ろめたさがない。また、意地悪をしたときの「おもしろさ」と違って心が温かくなり、晴れやかになるものである。親切な行為をすることによって得られる喜びについて理解し、親切にしようとする気持ちを育てることは、児童にとって人の喜びを自分の喜びと受け止め、人の心に寄り添うことができる温かな関わりを築いていくための基盤になるものである。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、男子4名・女子6名、計10名の学級である。ほとんどの児童は、家庭や学校での大人からの言葉掛けなどから、人に優しくすることや親切にすることは、いいことであるということは知っている。友達に対して親切にしている姿を見かけることもよくある。しかし、親切にすることの喜びや、そのよさを意識しているとはいい難い。むしろ自分の欲求を優先させ、自己中心的な言動になってしまう姿も見られた。「褒められるから」「大人が言うから」という理由で親切にするのではなく、親切にすることで得られる心地よさについてしっかりと考えるとともに、相手のことを思って親切にしようとする心が育つようにしたい。

(3) 教材について

〈教材の概要〉

森の動物たちにいじわるをしておもしろがっていたおおかみが、くまに親切にされてうれしく思い、自分もそれをまねすることで、親切にする気持ちよさを味わう。

動物たちに意地悪をするおおかみと、くまに親切にされたおおかみの心情に共感させ、両者を比べることから「親切にすることのよさ」に気づかせることができる。さらに親切にしようとする心を育むことのできる教材である。

3 研究テーマとの関連

(1) 「主体的・対話的で深い学び」において期待する児童の姿

	期待する児童の姿
主体的な学び	動物たちに意地悪をするおおかみ，くまに優しくされてうれしいおおかみの心情について，自分に置き換えて考える。 (自分との関わりで考える)
対話的な学び	意地悪や弱い者いじめをするより，人に優しくしたり親切にしたりすることに大きな喜びを感じられるという視点から，思いやりや親切にすることの大切さについて考える。 (多面的・多角的に考える)
深い学び	友達に親切にすることは，自分も友達もうれしくなることに気づき，自分の生活を振り返り，これからの生活について考えたことを話したり，書いたりする。 (自己の生き方について考える)

(2) 「主体的・対話的で深い学び」に向けての工夫

①主体的な学び（自分との関わりで考える）

・課題意識をもたせる導入

「親切ってどんなこと？」「親切にされたことがありますか？」など，親切という言葉を確認した後，親切にするとどんないいことがあるのかを問うことで，方向付けをし，課題意識を持つことができるようにする。

・「親切」について，日頃から意識できるように，帰りの会でうれしかったことを紹介するコーナーを設け，親切にされた側の喜びや親切にしたときの心地よさを実感できるようにし，教材について考えやすくなるようにする。また，「親切にした・親切にされた」時にシールを貼れる「しんせつがいっぱい！！シール」を掲示して，親切にしたりされたりする経験が増えるようにする。

②対話的な学び（多面的・多角的に考える）

・繰り返し発問

「始めと終わりのおおかみさんのいい気持ちは同じかな。」など，繰り返し発問を行うことで，意地悪する楽しさより親切にする楽しさに気づくとともに，親切は相手がうれしいだけでなく自分も気持ちいいことに気づき，自分も親切にしたいという意欲を高める。

③深い学び（自己の生き方について考えたことを話したり書いたりしている）

・導入での「親切にするとどんないいことがあるのか。」を再び取り上げ，「みんなは，おおかみさんのように，友達に親切にしている気持ちと聞いたことはありますか。」と問うことで，今までの自分を振り返り，自分のこととして考えることができるようにする。

4 ねらい

くまに親切にされたおおかみの変容を捉えることを通して，意地悪をしたときよりも，親切にしたときの方がずっと気持ちがいいことに気づき，身近にいる人に親切にしようとする心情を育てる。

5 展開

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。	<p>○親切にされたことがありますか。その時どんな気持ちでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしかった。 ・ありがとう。 ・やさしいな。 ・手伝ってもらってよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りの会での親切の紹介や親切シールの経験をすることで、児童の意識が親切へ向くようにしておく。 ・「親切にするってどんなこと？」と尋ね、親切にするということの具体的なイメージをもたせたうえで、発問する。
<p>しんせつにすると どんないいことがあるのかな。</p>		
2 「はしのうえのおおかみ」を読んで考え、話し合う。	<p>○戻っていくうさぎを見て、「えへん、へん。」と言いながら、おおかみはどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもしろいな。 ・おれは、強いぞ。 ・いじわるはたのしいな。 <p>◎おおかみは、どうしてうさぎに親切にしたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまさんみたいにしたいから。 ・うさぎさんに優しくしたいから。 ・うさぎさんが喜んでくれるから。 ・親切にするのはいいことだから。 ・親切にするのはいい気持ちだから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の大きさの違いを捉えてから発問する。 ・「えへん、へん。」とおおかみになりきって言うことで、おもしろがっているおおかみの心情を捉えやすくする。 ・教師がうさぎ役に、児童がおおかみ役になり、おおかみがうさぎを先に橋を渡らせる場面を演じることをもとに、親切にするおおかみの気持ちを考えることができるようにする。 (感染症対策に配慮して行う。) ・役割演技の後には、どのようにたずねるかをあらかじめ伝えておき、児童が答えやすいようにする。 ・始めと終わりのおおかみの「いい気持ち」を対比して、おおかみの気持ちの変容を捉えられるようにする。 ・うさぎに優しくなったおおかみの姿が「親切」ということをおさえておく。

		<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技の後におおかみの気持ちを児童数名が言った後、おおかみがなぜいい気持ちになったかをノートに書くようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> しんせつにされると、うれしい。 しんせつにすると、うれしい。 </div> どっちもうれしい。	
3 今までの自分について振り返る。	○おおかみさんみたいに親切にしたとき、どんな気持ちになりましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうと言ってくれて、うれしかった。 ・親切にしてよかった。 ・喜んでくれてうれしいな。 ・親切にするといい気持ち。 ・もっとしたいな。 	
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> しんせつにされると、うれしいな。 しんせつにすると、きもちいいな。うれしいな。もっとしたいな。 </div>	
評価	親切にすることの喜びやよさに気づくことができているか。 (自分との関わりで考えることができたか) 親切にすることのよさに目を向け、考えようとしているか。 (多面的・多角的に考えることができたか) くまに親切にされたおおかみの変容を通して、意地悪をしたときよりも、親切にしたときの方がずっと気持ちがいいことを理解することができたか。 (道徳的価値に係る考えに深まりが見られたか)	

6 板書計画

ふじぶんのこと

- ・しんせつにできてよかった。
- ・相手が喜んでよかった。

もっとしたいな。

ましんせつにしされると、うれしい。

すると、うれしい。いいきもち。

どっちもうれしい。

絵 2

絵 1

しんせつは、いいきもち
はしのうえのおおかみ
めしんせつにすると、どんないいことがあるのかな。

- ・「えへん、えへん。」
- ・くまさんみたいにしたい。
- ・うさぎさんがよろこんでくれる。
- ・しんせつにすると、いいきもち。

- ・「えへん、えへん。」
- ・おもしろいな。・つよいぞ。
- ・いじわるすると おもしろいな。

7 資料



〈教室後ろに掲示した「親切シール」の取組〉

8 成果と課題

① 主体的な学び

2学期の始めから、自分が親切にできたときや、自分が親切にされたときに、掲示している模造紙にシールを貼る「親切シール」の取組を始めた。この取組の成果として、子どもたちは「親切」という言葉に慣れ、友達に親切にすることを意識して過ごすことができ、本時の学習を自分のこととして考えることができていた。また、道徳アンケートの「道徳の時間は生活に役立つと思う。」の項目に、ほとんどの児童が「あてはまる」と答えるなど、普段の自分の行動と結び付けて考える習慣ができた。

② 対話的な学び

日常生活の中で自分の思いを話す活動を積極的に行った結果、入学当初に比べると、道徳の時間に自分の考えを話すことが少しずつできるようになってきた。本時でも、自分の考えを伝えようと頑張る姿が見られた。中心発問の後、「始めと終わりのおおかみさんのいい気持ちは同じかな。」と、切り返し発問を行うことで、親切は相手がうれしいだけでなく自分も気持ちいいことに気付くことができていた。そして、自分も親切にしたいという意欲が高まったように思う。児童が意欲的に発言できるように、他の教科でも「話し方名人」や「聞き方名人」の取り組みを行っていたが、まだ十分とは言えない。友達と同じ考えでも自分の言葉で発言するという習慣をつけることで、さらに活発に発言ができるようにしていきたい。また、少人数のペアで話したり、心情円を話すきっかけにしたりするなど、様々な手法を取り入れることで、さらに児童が自分の考えを相手に伝えられるようにしたい。

③ 深い学び

「おおかみさんのように、友達に親切にしているいい気持ちと
思ったことがありますか。」の質問に対して、経験を思い出して
話せる児童は少なかった。そこで、日常の生活の中で担任が見て
いた、友達に親切にしている様子を伝えて思い出させるようにし
た。今後も、道徳の振り返りの際に活用できそうな児童の様子を、
写真やメモで残しておくようにしたい。



〈考えを発表している場面〉

第2学年 教材名「お月さまと コロ」

(A 正義, 誠実) 日本文教出版

令和2年10月7日(水) 5校時 指導者 的場 功基

1 主題名 「すなおな 心で」

A「うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直にのびのびと生活すること」

教材名 「お月さまと コロ」 (日本文教出版)

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、A公平, 誠実「うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること」である。児童が自分らしさを発揮できるようにするためには、自分の気持ちに偽りのないようにすることが求められる。また、自己の過ちを認め、改めていく素直さとともに、何事に対しても真面目に素直に、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢をもつことが大切である。自分に素直になることで心がスッキリしたり、明るく楽しくなったりすることに気づき、のびのび生活しようとする心情を育てたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は男子4名・女子9名 計13名の学級である。言われたことに対しては、素直に行動に移すことができる。しかし引込み思案な児童も多く、「恥ずかしい」「叱られるのがこわい」などの気持ちから、うそをついたり思っていることを素直に表現できなかつたりすることがある。また、授業中に間違っている問題があっても、できているとごまかす姿も見られる。そこで本題材では、登場人物のおかれた立場に共感する活動や自分自身の生活を振り返る活動を通して、自分の気持ちに素直になることよきに気付かせ、のびのびと生活しようとする心情を育てたい。

(3) 教材について

〈教材の概要〉

主人公のコロが、自分のわがままで、たった一人の友だちのギロを怒らせてしまう。あやまらなければと思いながら、なかなか素直になれずに葛藤する。そんな中、お月さまの話を聞き、胸を張って歌ったことで素直な気持ちに気付く。

この教材は、主人公のコロの気持ちの変化を捉えることを通して、素直な気持ちで生活すると心ははれはれとした気持ちになることに気付くことができるものである。素直になれず、謝りたいけど謝れないというコロの置かれた立場は、本学級の児童にも共感しやすい。

3 研究テーマとの関連

(1) 「主体的・対話的で深い学び」において期待する児童の姿

	期待する児童の姿
主体的な学び	意地を張ったり、モヤモヤしたりして素直になれないときがあることに気づき、コロの葛藤する気持ちを自分のこととして考える。 (自分との関わりで考える)
対話的な学び	涙を流しているコロの気持ちを考え、素直になろうとする心と素直になれない心を多様な視点から考える。また、謝る場面を役割演技することで、素直になることの大切さも多様な視点から考える。 (多面的・多角的に考える)
深い学び	自分に素直になることの大切さ気づき、自分の生活を振り返ったり、これからの自分の在り方について考えを深めたりしている。 (自己の生き方について考える)

(2) 「主体的・対話的で深い学び」に向けての工夫

①主体的な学び（自分との関わりで考える）

- ・事前にアンケートをとることで、いろいろな経験や状況によって、意地を張ったり恥ずかしがったりして、素直になれない気持ちを自分のこととして考えることができるようにする。

②対話的な学び（多面的・多角的に考える）

- ・涙を流しているコロの気持ちを考えることで、素直になろうとする心と素直になれない心、どちらの心も存在することに気付くことができるようにする。
- ・謝る場面を役割演技することで、自分に素直になることの大切さを多様な視点から考えることができるようにする。

③深い学び（自己の生き方について考えたことを話したり書いたりしている）

- ・授業の終末で、今までの自己の生き方を振り返ったり、これからの自己の生き方について考えたりする時間を確保する。
- ・それぞれの発問について、自分の考えを書く時間を確保することで、交流しやすくする。

4 ねらい

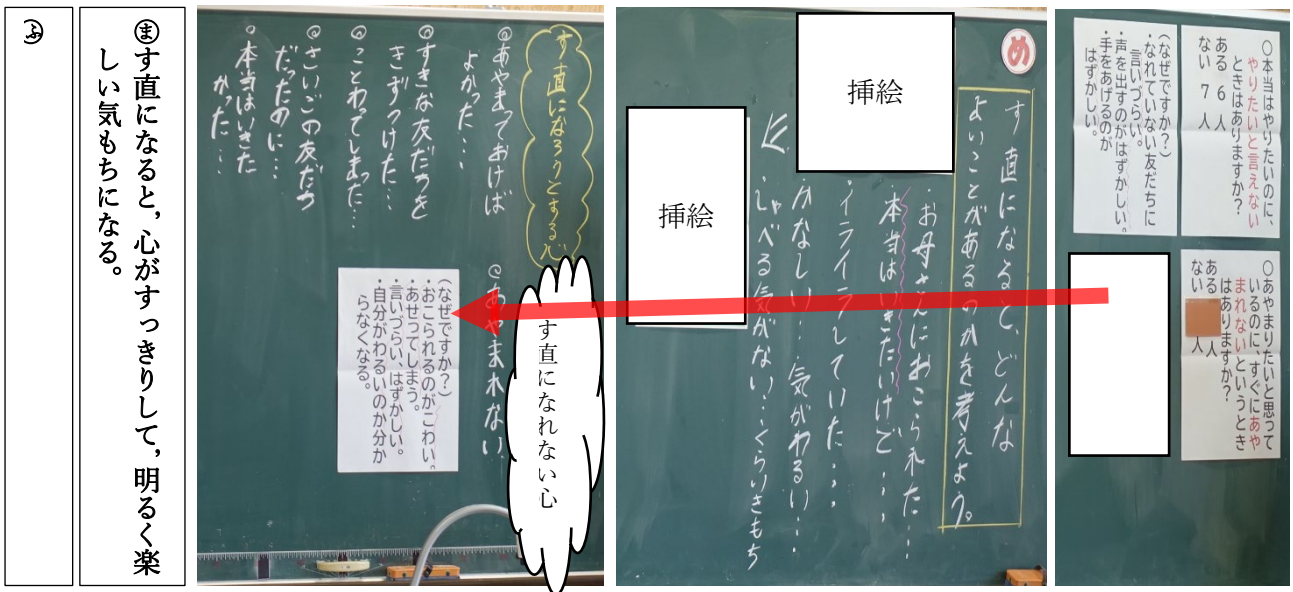
素直になることのよさを考える活動を通して、素直になると心がすっきりして、明るく楽しい気持ちになることに気づき、自分の気持ちに素直になって、明るくのびのび生活しようとする心情を育てる。

5 展開

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○アンケートの結果を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当はやりたいのに、やりたいと言えないときはありますか？ ・なぜですか？ ・謝りたいと思っているのに、すぐに謝れないというときはありますか？ ・なぜですか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を提示することで、誰にでも素直になれないときがあることに気付かせ、価値への方向付けをする。
<p>素直になると、どんなよいことがあるのかを考えよう。</p>		
<p>2 「お月さまとコロ」を読んで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギロの誘いを何度も断ってしまったコロの気持ちを考える。 ・コロが涙を流しているときの気持ちを考える。 	<p>○ギロが何度も誘ってくれたのに、コロはどうして断ったのですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんに怒られてイライラしていたから。 ・遊びたいけど、そんな気になれないから。 <p>◎コロはどうして涙を流したのでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・謝りたいのに謝れていないから。 ・せっかく誘ってくれたギロ君に悪いことをしてしまったから。 ・本当は遊びたいから。 ・このままでは嫌だから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロが誘いを断る場面を動作化することで、二人の気持ちが通い合わなくなっていくことを感じ取らせる。 ・「本当はどうしたいの？」など、繰り返し発問をすることで、素直な気持ちに気付くことができるようにする。 ・教師がギロ役、児童がコロ役となり謝る場面を役割演技することで、素直になったときの気持ちに気付くことができるようにする。
<p>素直になると心がすっきりして、明るく楽しい気持ちになる。</p>		
<p>3 今までの自分について振り返る。</p>	<p>○今まで素直になってよかったなと思ったことを、コロに教えてあげましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・謝ってすっきりしたよ。 ・やりたいことをやりたいと言えて楽しかったよ。 	
<p>自分の気持ちに素直になって、明るくのびのび生活していこう。</p>		

<p>評価</p>	<p>コロのように意地を張ったり、恥ずかしがったりして素直になれないときがあることを、今までの経験を通して考えることができたか。</p> <p>(自分との関わりで考えることができたか)</p> <p>涙を流しているコロの気持ちを、いろいろな視点から考えることができたか。</p> <p>「素直になれずにいると暗い気持ちになる」「素直になることは時には難しいこともある」「素直になると心がすっきりする」など、素直になることの大切さを多様な視点から考えることができたか。</p> <p>(多面的・多角的に考えることができたか)</p> <p>自分の気持ちに素直になることの大切さに気付き、自分の生活を振り返ったり、これからの自分の在り方について考えを深めたりすることができたか。</p> <p>(道徳的価値に係る考えに深まりが見られたか)</p>
-----------	---

6 板書計画



7 資料

アンケート

○本当はやりたいたのに、やりたいたと言えないときはありますか？

ある ・ ない

○なぜですか？

○あやまりたいと思っているのに、すぐにあやまれないというときはありますか？

ある ・ ない

○なぜですか？

〈事前のアンケート〉

⑩ お月さまと コロ

キロが 何ども さそって くれたのに、コロは どうして ことわったのですか？

今まで すなおになって よかったなど 思ったことを、コロに 教えて あげましょう。

コロは どうして なみだを ながしたのですか？

〈ワークシート〉

8 研究の成果と課題

① 主体的な学び

事前のアンケートでは、教材文の内容と同じ状況のことを問うことで、その結果を授業の最後まで一貫して活用することができた。また、登場人物の立場に共感しやすくなり、それぞれの場面で自分のこととして考えることができた。しかし、アンケートの内容が「謝れないことや素直になれないことがよくないこと」という価値の方向性を決めてしまうという可能性もあった。「思い通りにならないとき、あなたはどうしますか？」など、子どもが広い範囲でとらえられるものをアンケートにすることも必要である。

② 対話的な学び

最初の場面では、動作化を行わなくても、子どもたちは主人公の気持ちを考えることができていたと思うので必要はなかった。最後の場面では、代表者との役割演技後、様子を見ていた子どもにも問いかけを行っていき、全体を巻き込んで学習を進めていくことができた。しかし、どの場面を役割演技するかについてはもう少し吟味が必要であった。道徳的価値につながるころはどの部分なのかをしっかりと考え、その場面で効果的に役割演技をしていかなければならない。また、「過去に同じような経験があったの？」などの発問を行いながら、子どもたちに経験から発言させることができればよかった。

③ 深い学び

ワークシートを活用して、それぞれの発問で書く時間を確保することで、全員がしっかりと自分のこととして考えることができた。また振り返りの時間を十分確保することで、今までの自分やこれからの自分をしっかりと考えることができたが、さらに具体例などを提示すると、より考えやすくなっていったと思う。また、まとめは子どもたちに任せて行うとよかった。枠だけは決めておいて、中身は自由に記入させるようにしておくと、一人一人が得たものをより自覚しやすかったと思う。



挿
絵

〈代表者の役割演技〉



〈全体を巻き込んでの役割演技〉

第3学年 教材名「ちゃんと使えたのに」

(C規則の尊重)

日本文教出版

令和2年6月24日(水)5校時 指導者 片上 奈緒美

1 主題名 「やくそくを守るといこと」

C「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること」

教材名 「ちゃんと使えたのに」(日本文教出版)

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

「人の身になって考えよう。」本校ゆかりのある岡崎の言葉が学校玄関に掲示されている。日頃から目にとめて生活しているが、学校生活すべてのきまりがしっかりと守られてはいない。そこで、きまりのもつ意義やよさについて考えることを通して、きまりが、自分や集団が安全かつ安心して生活できるようにするためにあることを理解し、さらにそれを進んで守ろうとする心情が育つことを期待したい。また、自分の思いのまま行動するのではなく、人の身になって、集団や社会のために、自分が何をすればよいか、自分はどうしなければいけないのかを見つめることができるようにしたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、男子3名・女子3名 計6名の学級である。男女とも分け隔てなくとても仲がよく、休み時間にはいろいろな話をして過ごしている。会話の中で、ゲームやYoutubeなどのメディアに関する話が多く、家庭でのメディアの使い方については、使う時間が決まっている家庭は4件、決まっていない家庭は2件ある。また、県で決められたおおよその児童が使う時間については守ることができているようだが、メディアの怖さ等については理解できていない児童もいる。学校生活では、「宿題をすること」や「忘れ物をしない」等という約束を守ることができていく児童は少ない。そこで、「忘れ物0月間」を設定し、忘れ物がなかったらシールを貼り視覚的に示すことで、忘れ物をしないようにするという意欲は高まってきている。社会のきまりを守らないと取り返しのつかない事態に陥るおそれがあることや約束は何のためにあるのかを教材をもとに話し合うことで、考えるきっかけにしたい。

(3) 教材について

〈教材の概要〉

ゲームのこうりやくサイトを見るためにパソコンを使いたかったそうたは、妹の通院に行ったお母さんの帰りを待つ。6時頃の帰宅のはずが、7時頃になってしまう。そのことを聞いたそうたは、約束を破り1人でパソコンを使ってしまう。後日、そのことがばれてしまう。

この教材は、約束を破ってパソコンを使ってしまったそうたの気持ちを考えることで、約束やきまりを守ることの大切さについて考えたり、パソコン等を使うことの危険性を考えたりすることができるものである。さらに、約束やきまりを破ることで、周りの人に迷惑がかかることに気が付くことができる内容でもある。

3 研究テーマとの関連

(1) 「主体的・対話的で深い学び」において期待する児童の姿

	期待する児童の姿
主体的な学び	約束を破ったことが見つかった時の心情について、自分に置き換えて考えている。 (自分との関わりで考える)
対話的な学び	約束を破ったことが見つかった時の心情について、約束を破ってしまって反省する気持ちと言い訳を考えようとする気持ちなど、いろいろな視点から考えている。 (多面的・多角的に考える)
深い学び	約束やきまりを守ることの大切さに気付き、自分の生活を振り返っている。 (自己の生き方について考える)

(2) 「主体的・対話的で深い学び」に向けての工夫

①主体的な学び（自分との関わりで考える）

- ・事前にアンケート調査した結果を黒板に提示することで、自分の生活や経験に結び付けながら、自分の考えを発表することができるようにする。

②対話的な学び（多面的・多角的に考える）

- ・「お母さんも約束を守らないといけなかったのか。」「ばれなかったらよかったのか。」など、切り返し発問を行うことで、約束を守ることの大切さや約束を破ると周りの人に迷惑をかけることに気付くことができるようにする。
- ・心情円を活用することで、そうたがパソコンの電源を付ける時の気持ち“早く使いたい気持ち”と“使ったらだめだという気持ち”の2つの感情を視覚的に表現することができるようにする。

③深い学び（自己の生き方について考えたことを話したり書いたりしている）

- ・終末で、本時の学習で学んだことや感じたこと、考えたことを道徳ノートに書くことで、自分の生活を振り返り、約束やきまりを守ることの大切さに気付くことができるようにする。

4 ねらい

約束やきまりは何のためにあるのかを考える中で、約束やきまりはみんなが安心・安全に過ごすためにあるものだと気付き、進んで約束やきまりを守ろうとする心情を育てる。

5 展開

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
<p>1 本時の課題に対するアンケート結果を共有する。</p>	<p>○みんなにアンケートを聞いてもらった結果を発表します。</p>	<p>・本時で扱う価値への方向付けにするために、アンケート結果を視覚的に提示し、共有する。</p>
<p>やくそくは何のためにあるのだろう。</p>		
<p>2 「ちゃんと使えたのに」を読んで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンの電源を付けた時のそうたの気持ちを考える。 ・約束を破ったことが見つかった時のそうたの気持ちを考える。 ・そうたとお母さんの約束を守らなかったことは、どのようなところが違うか考える。 	<p>○パソコンの電源を付けるとき、そうたはどんな気持ちだっただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く見たい。 ・1人でも使えるから大丈夫。 ・お母さんだって約束を破った。 ・お父さんやお母さんがいないから使ったらだめだね。 ・つけたいけど、約束だし…。 <p>◎約束を破ったことが見つかった時のそうたは、どんな気持ちだっただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やばい、ばれてしまった。 ・勝手に使うんじゃないかった。 ・約束を守ればよかった。 ・誰にも迷惑かけてないのに。 ・何もあぶないことはなかったし。 <p>○そうたの約束とお母さんの約束は、同じですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そうたの約束は、我慢すれば守れる。守らないと危険なことにつながる。 ・そうたは約束を守ろうとしなかった。 ・お母さんの約束は、しかたのないこと。お母さんが約束を守りたい気持ちがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・“早く使いたい気持ち”と“使ったらだめだという気持ち”の二つのそうたの感情を共通理解する。 ・心情円を活用することで、そうたがパソコンの電源をつけた時の気持ちを視覚的に表現することができるようにする。 ・アンケート結果を基に自分の経験と結びつけて考えることができるように発問を行う。 ・ノートに自分の考えを書くことで、自分の考えを整理することができるようにする。 ・「お母さんも約束を守らないといけなかったのか。」「ばれなかったらよかったのか。」などの切り返し発問を行い、約束を守る大切さに気付かせ、約束を守ろうという心情を養うことができるようにする。 ・児童からの発言が出ない時には、児童が答えやすい発問を行うことで、そうたの約束とお母さんの約束の違いに気付くことができるようにする。

7 資料

道徳科 アンケート		
3年 名 前()		
①	ゲームやタブレットを使う時のやくそくはありますか。	ある ない
②	その時のやくそくは何ですか。	
<div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>		
③	やくそくをまもれなかったことがありますか。	ある ない

〈事前に行ったアンケート〉

8 成果と課題

① 主体的な学び

事前にメディアに関するアンケート調査をすることで、児童の実態把握を行うことができた。そのため、アンケート結果を基に、“約束は何のためにあるのか”という価値に迫り、めあてをつかませることができた。しかし、導入部分でしかアンケート結果を活用しなかったため、自分の生活や経験に立ち返る場面を作ることができなかった。導入部分だけでなく、展開や振り返りなどの学習活動の中で、「みんなだったら、どうする？」や「こんな経験したことある？」などの発問をすることで、自分の生活や経験に立ち返って考えることができたのではないかと考える。

② 対話的な学び

心情円を活用することで、それぞれの児童が、登場人物の2つの気持ちの割合を表し、自分の考えをもつことができた。しかし、児童が表した心情円について、それぞれが発表するだけになり、児童同士の対話を作ることができなかった。黒板に掲示する前に、心情円を使ってペア学習を取り入れるとよかったのではないかと考える。

「約束を破ったのはそうただけ？」や「そうただけおこられるのは、おかしいよね？」などの切り返し発問を行うことで、道徳的価値に迫る意見を聞くことができた。しかし、切り返し発問に対して、考えをもつことができる児童のみが発表する形になってしまった。全員が道徳的価値に迫るために、ペア学習を行ったり、他の児童に投げかけたりするなど、対話が生まれたり、考えを深めたりできるような活動や工夫を取り入れるとよかったのではないかと考える。

③ 深い学び

“やくそくは何のためにあるのか”について考え、まとめにつなげたが、自分の生活や経験を基に振り返りを書いたり、約束やきまりを守ることの大切さに気づいたりした児童は少なかった。振り返りを書く前に、視点を全員で確認し、つかませる必要があった。また、道徳的価値に迫る発言には色をつけるなど、板書の工夫を行うことや約束やきまりを守ることの大切さについて話し合う時間を設定することなどが必要だったのではないかと考える。

第4学年 教材名「心と心のあくしゅ」

(B親切, 思いやり) 日本文教出版

令和2年12月16日(水) 6校時 指導者 佐藤 由美子

- 1 主題名 「ほんとうの親切」 B「相手のことを思いやり, 進んで親切にすること」
教材名 「心と心のあくしゅ」 (日本文教出版)

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

中学年では友達同士の交流が活発になり, 相手の気持ちを察したり, より深く理解したりすることができるようになる。一方, 他の人の感じ方や考え方が自分と同様であると思いがちになるとも言われている。そのため, 中学年における思いやりとは, 相手の状況を押し量りながら, どのように接し対処することが相手のためになるのかを考えて, 言動へ移すことが求められる。親切には何が大切なのかについて考えを深め, 時には相手のことを温かく見守ることも親切の一つであることに気づかせつつ, 思いやりの心をもって親切にしようとする心情を育てたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は, 男子5名, 女子5名 計11名の学級である。どの児童も困っている人を助けたいという気持ちをもっており, 誰にでも親切にしようとする姿がよく見られる。しかし, その気持ちが一方的である場合があり, 相手が本当に望んでいることかどうかについてはまだ考えが及ばないこともある。また, 親切な行いとは具体的な行動をすることであるという捉え方も多く, 見守ることも親切の一つであるという捉え方はまだあまりできていない。親切とは, 相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をすることであると気づき, 相手のことを親身になって考えようとする態度を育てたい。

(3) 教材について

〈教材の概要〉

重そうな荷物を持って歩くおばあさんを助けようとした「ぼく」は断られるという意外な展開にとまどう。しかし, おばあさんの状況を知り本当におばあさんの役に立つ行動を自ら見つけて実行する。

この教材は, 「ぼく」の行動の変容を追いながら, 手伝ったり助けたりするという目に見える親切だけでなく, 温かく見守るといった目に見えない思いやりもあるということに気づくことができる内容である。さらに, 「親切にする」とは相手の側に立ち, その状況に応じて相手が望むことをするという考えをすることができる教材である。

3 研究テーマとの関連

(1) 「主体的・対話的で深い学び」において期待する児童の姿

	期待する児童の姿
主体的な学び	児童の願いから本時のめあてを設定し、親切について大切なことを考えている。 また、今までの自分の体験を引き合いに出したり、自分だったらどうするかを想像したりして考えている。 <p style="text-align: right;">(自分との関わりで考える)</p>
対話的な学び	「ぼく」の気持ちの変化を捉えることを通して、積極的に手を差し伸べる親切もあれば、状況によっては見守ることも親切の一つであることについて考え、話し合っている。 <p style="text-align: right;">(多面的・多角的に考える)</p>
深い学び	親切にするために大切なことに気づき、これまでの自分を振り返り、これからの自分の在り方について考えている。 <p style="text-align: right;">(自己の生き方について考える)</p>

(2) 「主体的・対話的で深い学び」に向けての工夫

①主体的な学び（自分との関わりで考える）

- ・導入で親切に関する事例を取り上げ、本当に親切な行いと言えるのかについて話し合いながら本時のめあてを設定することにより、自分のこととして考え、学習することができるようにする。

②対話的な学び（多面的・多角的に考える）

- ・初めにおばあさんに声をかけたときと、後ろをついて歩いたあとの「ぼく」の気持ちを心情円を使って表現することで、気持ちの変容を捉えることができるようにする。
- ・「おばあさんの後ろをついて行ったことが、親切になるのか？」と切り返しの発問をして話し合うことで、相手の気持ちを考えて見守ることも親切の一つであることに気づくことができるようにする。

③深い学び（自己の生き方について考えたことを話したり書いたりしている）

- ・親切にしたことや親切にされたことを人権週間に学級で話し合うことで、親切について意識できるようにしておく。
- ・今までに相手の立場や気持ちを考えて親切にできたことを振り返ることで、これからの自分の言動について考えて記述できるようにする。

4 ねらい

親切にするためにはどんなことが大切なのか考える中で、見守ることも親切の一つであることに気づき、相手の気持ちを考えながら親切にしていこうとする態度を養う。

5 展開

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてを考える。</p>	<p>○親切に関する事例から、親切とはどんなことかを考えながら、本時のめあてを話し合う。</p>	<p>・取り上げた事例が親切な行いと言えるのかを話し合うことで、設定しためあてが自分のこととして考えられるようにする。</p>
<p>親切にするために、どんなことが大切だろう。</p>		
<p>2 「心と心のあくしゅ」を読んで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声をかけて断られたときの「ぼく」の気持ち。 ・お母さんからおばあさんのことを聞いたときの「ぼく」の気持ち。 ・おばあさんの後ろをついて歩いたときの「ぼく」の気持ち。 	<p>○「荷物、持ちます。」と声をかけて断られたとき、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかく声をかけたのに。 ・何で断るのだろう。 ・恥ずかしい。悲しい。 ・本当に大丈夫かな。心配だな。 <p>○お母さんからおばあさんのことを聞いたとき、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らなかったから声をかけた。 ・おばあさんは頑張っていたんだ。 ・次は声をかけない方がいいかな。 <p>○そっとおばあさんの後ろをついて歩きながら、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大丈夫かな。 ・助けたほうがいいかな。 ・おばあさんが心配だからついて行こう。 ・おばあさんのためになるのは、どんなことだろう。 ・頑張っているから見守ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声をかけたことを「やってよかった」か「やらなければよかった」かで心情円に表すことで、親切にしようと思ったのに断られた「ぼく」の困惑した気持ちを考えることができるようにする。 ・「ぼく」が気づいたおばあさんの本当の気持ちを捉えて考えることができるようにする。 ・ついて行ったことを再び「やってよかった」か「やらなければよかった」かで心情円に表すことで、最初に声をかけたときとの気持ちの変容を捉えることができるようにする。 ・「後ろをついて行って、何もしていないのではないか?」「これが親切になるのか?」と切り返しの発問をすることで、何かをすることだけが親切ではなく、見守ることも親切の一つであることに気づくことができるようにする。

<p>本当に親切にするために大切なことは、相手の立場になって気持ちを考え、何をすればよいか考えること。見守ることも親切の一つ。</p>		
<p>3 今までの自分について振り返る。</p>	<p>○今までしてきた自分の親切はどうですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の気持ちを考えて親切にできたことがあったな。 ・これからは、相手の気持ちを大切にして、親切にしたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに相手のことを考えて親切にできたことや、本当の親切とは言えないと思うことを想起させ、これからのことも考えることができるようにする。
<p>相手の気持ちを考えながら、親切にしていこう。</p>		
<p>4 教師の説話を聞く。</p>		
<p>評価</p>	<p>今までの自分の体験を引き合いに出したり、自分だったらどうするかを想像したりして、話したり記述したりしている。</p> <p style="text-align: center;">(自分との関わりで考えることができたか)</p> <p>「ぼく」の気持ちの変化を捉えることを通して、親切とは、相手の立場や気持ちを考えて、積極的に手を差し伸べることが必要である場合もあれば、状況によっては見守ることが大切な場合もあることに気づき、話し合うことができたか。</p> <p style="text-align: center;">(多面的・多角的に考えることができたか)</p> <p>親切にするために大切なことに気づき、これまでの自分を振り、これからの自分の在り方について考えたことを話したり書いたりすることができたか。</p> <p style="text-align: center;">(道徳的価値に係る考えに深まりが見られたか)</p>	

6 板書計画

<p>これから</p>	<p>○ふ わかったこと 今までにできたこと</p>	<p>○ま 相手の立場になって気持ちを考える 見守ることも親切の一つ</p>	<p>● (心情円) ・おばあさんのためになった</p>	<p>挿絵</p> <p>○おばあさんの後ろを歩いたとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ だいじょうぶかな ・ 助けた方がいいかな ・ 何かできるかな ・ 見守ろう 	<p>挿絵</p> <p>○おばあさんのことを聞いたとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩きたかったんだな ・ 声をかけなければよかったかな ・ 今度は声をかけないでおこうか 	<p>● (心情円) ・ ざんねん がっかり 悲しい</p> <p>○声をかけて、ことわられたとき</p>	<p>○め 親切にするために、 どんなことが大切だろう。</p>	<p>親切の事例</p>
-------------	--------------------------------	--	----------------------------------	---	--	---	--------------------------------------	--------------

〈ノートの記述より〉



26

心と心のあくしゅ

■ そつとおばあさんの後ろをついて歩きながら、「ぼく」はどんなことを考えていたのでしょうか。

おばあさん大じょうぶかな。

と中でころへだりたおれたりし

ないかな。無事に家へかえ

るかな。なんだかしんばい

歩きながら、そつと見まもてこう。

これから

■ ふりがえる

相手がどう思うかを考
えて、親切にしたらいいかを
次に考えていきたい。

相手の気持ちを考え、
やると親切がうまくいきそ
う。(家で弟の気持ちが分か
らないから、けんかになっ
たりするから、「なにがしてほ
い」と次からは声をかける。

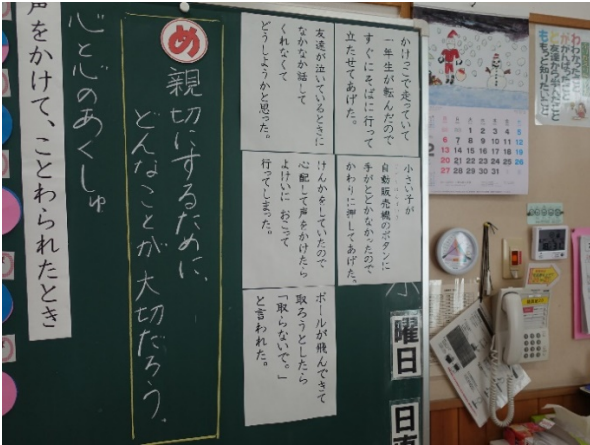
学習した日

□ □
月

□ □
日

教科書 「132〜135ページ」

〈親切についての事例〉



〈心情円を使って自分の気持ちを表現する〉



8 成果と課題

① 主体的な学び

事前に児童に「親切にできたこと」や「親切にしようと思ったけれどうまくいかなかったこと」についてのアンケートを行った。「うまくいかなかったこと」については、教師が用意した事例とともに本時の導入で取り上げ、本当に親切と言えるのかを話し合いながらめあてを設定した。実際の体験を事例として取り上げたことで、児童は自分のこととして考えながらめあてを設定することができたと思う。しかし、事例の内容については、ねらいに適しているかをよく検討する必要があると感じた。今後も導入場面を工夫し、課題意識や願いを引き出すことができるように考えていきたい。

② 対話的な学び

初めにおばあさんに声をかけたときと、後ろをついて歩いたときの「ぼく」の気持ちを心情円で表すことで、気持ちの変容を捉えることはできた。「おばあさんの後ろをついて行ったことが親切になるのか？」という切り返し発問によって、見守ることも親切であると気づいて考えを述べる児童もいた。しかし、心情円の使い方としては、後ろをついて歩いたときの葛藤がある場面のみで、「声をかける」か「ついて行く」かの気持ちを表すことに用い、児童が表現した色について理由を述べながら話し合う方が、対話的な学びにつながったと考えられる。そこから、おばあさんの気持ちを考えて行動することに焦点化しながら話し合いを進め、相手の立場に立って考えることの大切さに結びつけることができればよかった。今後も、話し合いを深めたり児童の心を揺さぶったりするための効果的な発問について考えていきたい。

③ 深い学び

本時より前に、人権週間中の帰りの会や学級活動で、親切にしたことや親切にされたことについて話し合ったことで、親切について意識しながら道徳の授業に臨むことができた。今までに相手の立場や気持ちを考えて親切にできたことを振り返ったり、これからの自分の言動について考えたりすることについてはノートに書くことができていたが、本時のねらいの理解が十分ではなかったと考えられる記述も見られた。今後も、ねらいを明確にしたアンケートや心情円、道徳ノートの適切な活用をすることで、自己の生き方について考え、深い学びができるように取り組んでいきたい。

第5学年 教材名「うばわれた自由」

(A 善悪の判断, 自律, 自由と責任) 日本文教出版

令和3年2月3日(水) 6校時 指導者 小林 達也

- 1 主題名 「ほんとうの自由」 A「善悪の判断, 自律, 自由と責任」
教材名 「うばわれた自由」 (日本文教出版)

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

この内容項目は、物事の善悪についての確に判断し、自ら正しいと信じることにしたがって主体的に行動すること、自由を大切にするとともにそれに伴う自律性や責任を自覚することに関する内容項目である。

人として行ってよいこと、社会通念として行ってはならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期から徹底して身に付けていくべきものである。社会の一員としての自覚をないがしろにした自由は、単なるわがままにすぎない。そしてそれは、社会に受け入れられないばかりか、自分自身の自由も失ってしまうことに気づかせたい。本当の自由とは、規律を守った自律的に責任のある行動のうえに成り立っていることを理解させ、それを大切にしようとする心情を育てたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、男子3名・女子5名、計8名の学級である。何事も素直に受け止めて行動することができる。また、自主的に考え、行動しようする傾向も徐々にではあるが見られ始めている。男女の区別なく関わりながら協力することができ、困っている友達に進んで声をかける児童も多い。しかし、自分のその時の感情だけで物事の善し悪しを判断したり、相手の気持ちを考えない自分本位の言動で友達とトラブルになったりすることも多い。教師が間に入りながら冷静に話し合えば、自分の良くなかったことについて振り返ることはできる。だが、自律的に行動できるところまでは育っていないと考える。そこで本教材で学習することを通して、自由とわがままの違いや自由な考えや行動のもつ意味や大切さを理解できるようにしたい。そして、日常生活で起こりそうな自律的な判断が求められる場面やその判断の後の影響を考えることを通して、自律的で責任のある行動のよさの理解を深めたい。

(3) 教材について

〈教材の概要〉

自分の思いのままに行動することが自由であると考えているジェラルが、森の番人ガリューにその考えの誤りを諭されるが聞き入れず、牢に入れてしまう。その後、ジェラル自身が国内の乱れが原因で囚われの身になり、かつて牢に入れたガリューと同じ牢に入れられてしまう。ガリューと再会したジェラルがガリューと会話をする中で、改めて本当の自由とは何か考える話である。

本教材に描かれているのは、わがままを「自由」と取り違えた結果、本当の自由を奪われた人間の姿である。やりたいことをするのが自由だと考えているジェラルと規律を守ることの大切さを

訴えるガリユの考えの相違をきっかけに、「自由とはなにか」について話し合っていくことでねらいにせまりたい。そして、身近で起こりそうな場面でのどのように行動すれば自由な行動が許されるのかについて意見を交わすことで、課題を自分のことと捉え、自律的で責任ある行動の大切さについての理解をふかめることができるようにしたい。

3 研究テーマとの関連

(1) 「主体的・対話的で深い学び」において期待する児童の姿

	期待する児童の姿
主体的な学び	自由について、何をしてもいいというイメージから、より多面的・多角的に自由について捉えるために進んで考えたことを話したり書いたりして、表現している。 (自分との関わりで考える)
対話的な学び	ジェラルが最初に考えていた自由と最後にガリユが言うほんとうの自由との違いに着目し、自由について自分の経験を根拠に意見を話したり、他の児童の意見を聞きながら答えたりしている。 (多面的・多角的に考える)
深い学び	導入で自由と言ってよいか判断のつきにくかった場面についてもう一度考えることを通して、自由とはきまりを守ったり周りの人のことを考えたりしながら行動することだという理解を深めている。 (自己の生き方について考える)

(2) 「主体的・対話的で深い学び」に向けての工夫

①主体的な学び（自分との関わりで考える）

- ・「明日あなたは1日自由です。何をしますか。」というような内容の事前アンケートをとり、自由についてのイメージを導入の際に共通理解しやすいようにする。
- ・アンケート結果をもとに想定した場面を提示し、「自由だ」と言えるかどうか問う。そして場面を「自由」「自由とは言えない」「微妙」の3つにグループ分けしてみることで、一言で「自由」といっても全て同じとは捉えられないことに気づくことができるようにする。
- ・事前アンケートを使いながら「自由とは好きなことを好きな時にするというイメージなのに、なぜ微妙や自由じゃないと感じる場面がでるのか」と問いかけ、児童が本時で考えたいめあてにつなげられるようにする。

②対話的な学び（多面的・多角的に考える）

- ・ジェラルのわがままを言っている場面での自由というもののとらえ方を想像し、ジェラルの言う自由＝わがままの構図に目が向けられるようにする。また、「ジェラルは王子だからいいのではないか」と問い返すことで、きまりを守ることと自由との関わりにも意識が向くようにする。
- ・ガリユの言うほんとうの自由とジェラルの考えていた自由とはどんな違いがあるのかを話し合うようにすることで、本時のねらう道徳的価値に迫ることができるようにする。

③深い学び（自己の生き方について考えたことを話したり書いたりしている）

- ・導入で分類したものを話し合いながら改めて分類することで、今までの自分を振り返る一助とする。
- ・「本当の自由」とはどういうことか道徳ノートに書き、紹介し合うことで本時の学んだ内容の理解を深めることができるようにする。

4 ねらい

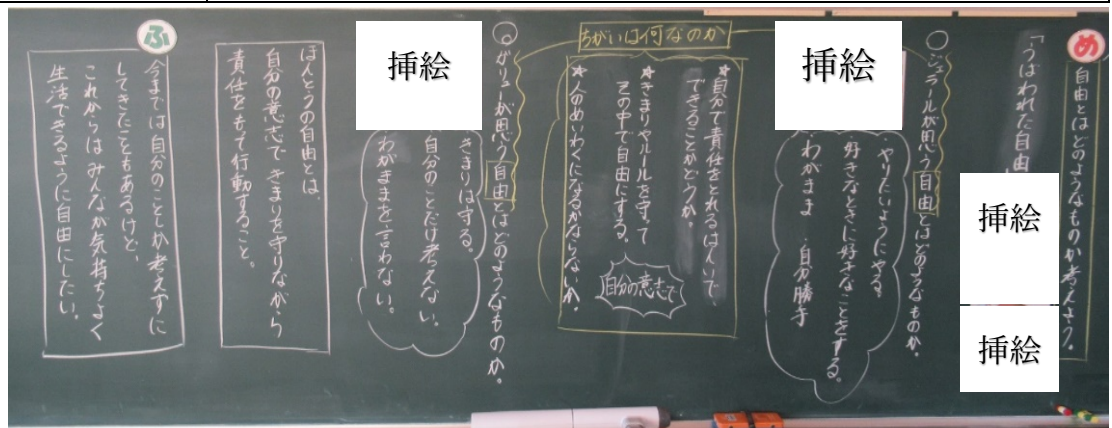
自由とはどのようなものか考えることを通して、自分がしたいことを自分勝手にするというのではなく、自分の意思に沿って規律を守りながら責任をもって行動することが自由であることに気づき、自分の意思に沿って責任ある行動をとろうとする心情を育てる。

5 展開

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてを考える。</p>	<p>○次の場面は、自由で良いなと思えるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいと思う。 ・それは自由とは言えない。 ・どちらとも言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に「1日自由なら何をやる」アンケート調査しておき、回答されたことを知らせる。 ・アンケート結果をもとに、自由でよいと判断できそうな場面や判断が曖昧になりそうな場面、よくないと判断できそうな場面を提示する。児童が理由をのべながら判断していくことで、本時で考えなくてはならない主題に気づき、めあてにつなげることができるようにする。
<p>自由とはどのようなものか考えよう。</p>		
<p>2 「うばわれた自由」を読んで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わがまを指摘されたときのジェラルが思う自由 ・ガリユのいう「ほんとうの自由」とはどのようなものなのか 	<p>○「人はみんな——おまえも自由にくらしてみろ」と言ったときのジェラルは自由とはどのようなものだと考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やりたいようにやる。 ・好きな時に好きなことをする。 <p>◎ガリユの言う「ほんとうの自由」について、牢屋の中でジェラルはどのようなものだと考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守って自由にする。 ・わがまとはちがう ・周りの人のことも考えてできること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェラルの考えは良いのか尋ねたり、王子様だからいいのではないかと問い返したりすることで、社会通念として行ってはならないことが分かっている自分に気づけるようにする。 ・前半のジェラルの自由についての考え方の違いについて話し合うようにすることで、自由には責任が伴うことに気づくことができるようにする。 ・自分の経験をわがまだったのかほんとうの自由だったのかという視点に沿って想起できるように補助発問を工夫したり、事例を示したりする。「前に自分にも似たようなこ

	とがありましたか。」 「他の人も似たような経験はありますか。あれば紹介してください。」 ・自分勝手と自由について考えられたことを発言するよう促し、その発言をまとめながら板書に残す。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ほんとうの自由とは、自分の意志で規律を守りながら責任をもって行動すること。 </div>	
3 今までの自分を振り返る。	○今までの自分は自由ということについてどうでしたか。 ・アンケート結果をふり返ることで、今までの自分と学びを結びつける一助とする。 ・特に自由と言ってよいかどうか曖昧だった場面に着目することで、本時の学びを生かせる場となるようにする。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> これからは、自分勝手ではなく、お互いが気持ちよく生活できるようにお互いの自由を大切に守っていきたい。 </div>	
4 教師の説話を聞く。	
評価	自由について、何をしてもいいというイメージから、より多面的・多角的に自由について捉えるために自分の過去の経験と関連付けながら進んで考えたことを話したり書いたりして、表現していたか。 (自分との関わりで考えることができたか) ジェラルの自由についての考え方の変化を読み取ることを通して、お互いの自由が守られるためには自分勝手ではなく、ルールや規範意識に基づいた自律的な行動や、他者の状況や気持ちを考えるなどが大切であることを理解できたか。 (多面的・多角的に考えることができたか) 導入で自由と言ってよいか判断のつきにくかった場面についてもう一度考えることを通して、自由とはきまりを守ったり周りの人のことを考えたりしながら行動することだという理解を深められていたか。 (道徳的価値に係る考えに深まりが見られたか)

6 板書計画



7 資料

1日自由です！何をしますか？	
1位 メディア使いまくり	20票
2位 買い物	7票
3位 ねる すきなところへ行く 運動	4票

これは自由にしていいことと言えるだろうか？		
自由でしょう	どうかかわからない	自由にしてはいけない

目がさめてから昼まで家でゲーム、昼からねるまで動画を見つづけよう！

朝6時から友だちの家に行って、夜12時まで、友だちとずっとゲームばかりやろう！

友だちとやったゲームがおもしろかった！よし！勝手に持って帰ろう！

〈導入で使用した場面（プレゼンテーションソフト使用）〉

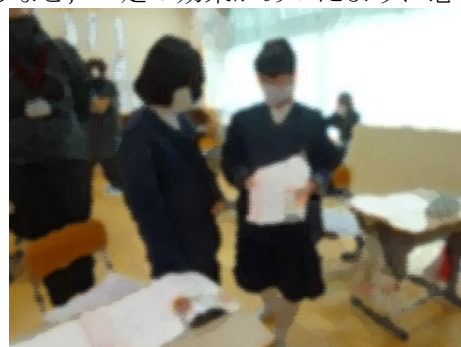
8 成果と課題

①主体的な学び

事前に行ったアンケート結果をもとにした場面について考えることで、自由とはどのようなものかを考える本時のめあてにスムーズに入ることができた。また、自分のこととしてテーマを捉えることにもつながり、積極的に発言しながら児童が学習を進めることができた。しかし、題材の扱いを軽くしてしまったことにより、頭で理解している理想を語るだけにとどまってしまったので、教材研究をより入念に行い、題材のもつよさをいかせるようにしたい。

②対話的な学び

ジェラルールとガリューの自由の違いについて発問した際に、何人かで相談する時間を設けたが、自分の考えと相手の考えを比べながら発言する様子が見られるなど、一定の効果があったように思う。しかし、自分の過去の経験とその時の気持ちを結びつけながら話すことは難しかった。①とも関連するが、題材の展開から自分の過去の経験につなげたり、補助発問を工夫したりする必要があった。



③深い学び

振り返りに導入で自由と言えるかどうか考えた場面を扱った際には、本時の道徳的価値を確かめながら自由と言えるのかどうかを発言する児童の姿が見られた。また、自由と責任についてもこの時に児童から発言があったので、有意義な活動だったと考えられる。しかし、今までの自分を振り返り道徳ノートに書く活動では、具体的な姿を書いている児童は少なかった。頭では分かっているが、実生活と結び付けて考えることは難しかった。

第6学年 教材名「ぼくたちの学校」

(C よりよい学校生活, 集団生活の充実)

日本文教出版

令和2年11月18日(水) 6校時 指導者 池田 祐加

- 1 主題名 「学校を愛する心」 C「よりよい学校生活, 集団生活の充実」
教材名 「ぼくたちの学校」 (日本文教出版)

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

この内容項目は、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい学級や学校をつくとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めることに関するものである。

人は社会的な存在であり、家族や学校をはじめとする様々な集団や社会に属して生活を営んでいる。集団への所属感を高めるためには、学校の様々な人々との活動を通して、学級や学校全体に目を向けることが必要である。様々な集団に属する一人一人が、集団の活動に積極的に参加し、集団の意義に気付き、自分の役割と責任を自覚して、充実した集団生活を構築するために努力しようとする心情を育てたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、男子4名・女子2名、計6名の学級である。何事も素直に受け止めて行動することができ、学級での当番活動や委員会での常時活動に一生懸命取り組んでいる。誰とでも分け隔てなく関わることができ、友達の様子を見て優しく声をかける姿も見られる。しかし、集団を支えているのは自分たち自身であるという認識は低く、学習や行事に対して消極的な面もある。自分の役割は果たそうとするが、友達のこととも考え、お互いに協力し合って乗り越えていこうとする気持ちはあまり見られない。そこで、日々の学習や行事を通して、学級や学校全体に目を向けさせ、「自分は集団の役に立っている」という実感をもつことができるようにしたい。また、集団の意義に気付き、自分の役割と責任を自覚して、充実した集団生活を構築するために努力しようとする心情を育てたい。

(3) 教材について

〈教材の概要〉

東日本大震災の影響で、学校にも行けず、先生や友達とも会えない日々が続いていた。震災から約1ヶ月後、ようやく学校が始まったが、津波で校舎が使えなくなり、となりの小学校までバスで登下校することになった史哉たち。ある日、バスの中で1年生が泣き出してしまった。どうすることもできずに困っていたとき、同級生の佑大が歌った校歌に励まされ、たくさんの人の協力で現在の生活が成り立っていることに気付く。

この教材は、主人公の史哉の気持ちの変化を捉えることを通して、集団を支えているのは自分たち自身であり、集団に所属する一人ひとりが自分の役割と責任を自覚することの大切さに気付くことができるものである。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、急に学校に通えなくなったという経験をしているため、今までは当たり前だったことができなくなるという内容は、本学級の児童にも共感しやすい。学校に通えることの喜びや、学級や学校、身近な集団への愛着を再確認することから、よりよい学校をつくらうとする態度を育てたい。

3 研究テーマとの関連

(1) 「主体的・対話的で深い学び」において期待する児童の姿

	期待する児童の姿
主体的な学び	児童の願いから本時のめあてを設定し、よりよい学校をつくっていくために大切なことについて考える。また、今までに自分が取り組んだことを引き合いに出したり、自分だったらどうするか想像したりして話している。 (自分との関わりで考える)
対話的な学び	史哉の気持ちの変化を捉えることを通して、集団に所属する一人ひとりが自分の役割と責任を自覚することの大切さについて考える。 (多面的・多角的に考える)
深い学び	よりよい学校をつくっているのは自分たち自身であることに気付き、自分の生活を振り返ったり、これからの自分の在り方について考えを深めたりしている。 (自己の生き方について考える)

(2) 「主体的・対話的で深い学び」に向けての工夫

①主体的な学び（自分との関わりで考える）

- ・事前学習として、学活の時間に「よい学校像」について話し合い、理想の学校像について一人ひとりの思いをはっきりさせておくことで、自分と登場人物の状況を関連付けて考えることができるようにする。その中で、思うようにいかないことがあるということに気付き、扱う価値への方向付けとする。
- ・児童の願いを明確にし、それを阻んでいることを考え、児童が考えたいことを本時のめあてに設定することで、主体的に学ぶことができるようにする。

②対話的な学び（多面的・多角的に考える）

- ・心情円を使って「悲しい、つらい」気持ちを青色で表現することで、史哉の気持ちを視覚的に捉えることができるようにする。心情円が全て青色ではなく、少しピンク色のある児童にその理由を問うことで、「何とかしないといけないと考える」気持ちもあることに気付くことができるようにする。また、1回目と2回目の心情円を比較し、その理由を問うことで、史哉の気持ちの変化を捉えやすくする。
- ・「でも、どうしようもないよね?」「6年生だからって、何とかできるわけではないよね?」と切り返しの発問をすることで、6年生としての役割に気付くとともに、話し合いを深めていくことができるようにする。

③深い学び（自己の生き方について考えたことを話したり書いたりしている）

- ・1年生を迎える会や大和スポーツ大会の写真を提示したり、導入からコロナの影響で思うようにいかなかったことや、コロナに関係なく自分たちに足りないことがあることも想起させたりすることで、これからのことも考えることができるようにする。
- ・大和小学校を卒業した先輩からのメッセージを読むことで、自分たちで学校をつくっていくとすることがよりよい中学校生活にもつながるということに気付き、卒業まで学校のためにがんばりたいという気持ちを高めることができるようにする。

4 ねらい

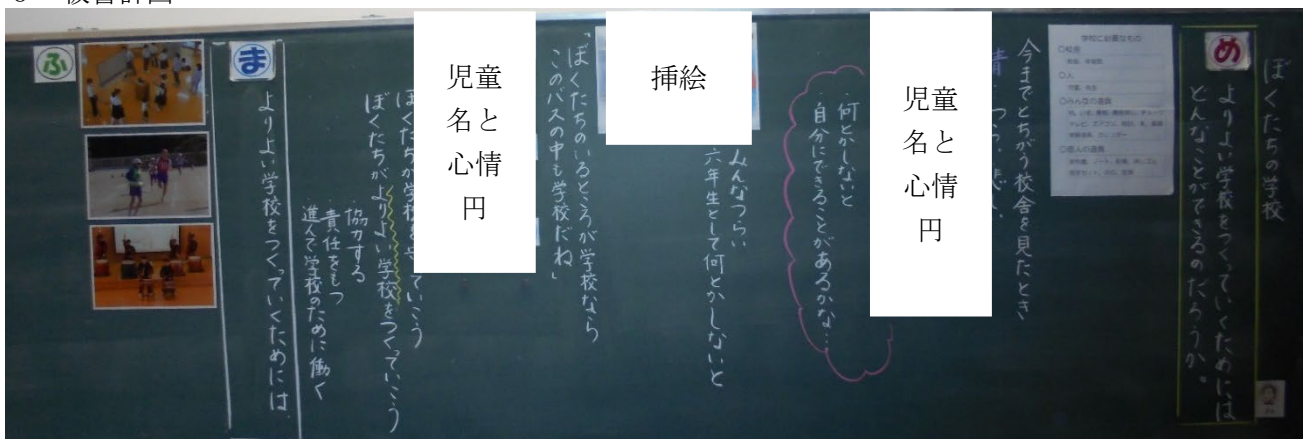
よりよい学校をつくっていくためにはどんなことが大切なのか考える中で、自分の役割に責任をもって行動しようとするのが大切だということに気付き、みんなで協力して自分たちの学校をつくっていくという態度を養う。

5 展開

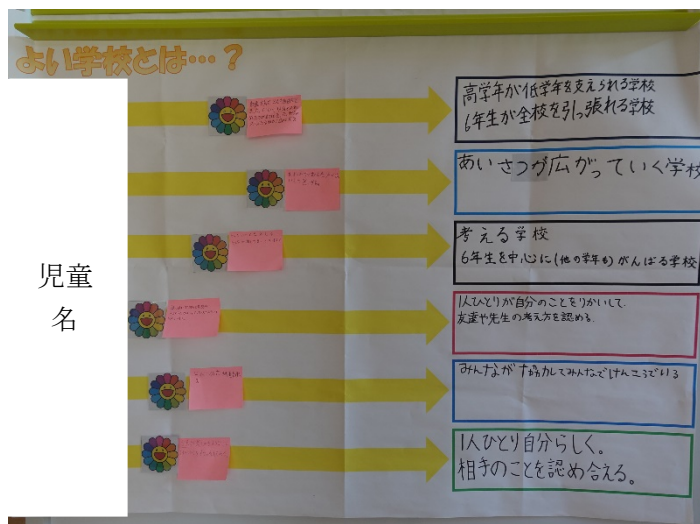
学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてを考える。</p>	<p>○学活の時間に「よい学校像」について考えたことを想起させ、児童と本時のめあてを設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学活の時間に「よい学校像」について話し合い、理想の学校像について一人ひとりの思いをはっきりさせておく。 ・「よりよい学校をつくっていきたい」という気持ちを大切に、児童とめあてを設定することができるようにする。
<p>よりよい学校をつくっていくためには、どんなことができるのだろうか。</p>		
<p>2 「ぼくたちの学校」を読んで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までと違う校舎を見たときの史哉の気持ち ・1年生の子が泣き出したときの史哉の気持ち ・佑大くんの言葉を聞いたときの史哉の気持ち 	<p>○今までとちがう校舎を見たとき、史哉はどう思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つらい。 ・学校が使えなくなって、悲しい。 ・早くもとの学校に戻りたい。 ・悲しんでばかりでは何もできない。何とかしないと。 ・ぼくには何ができるのだろう。 <p>○1年生の子が泣き出したとき、史哉はどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなつらいんだな。 ・ぼくはどうすればいいんだろう。 ・みんなを元気づけたいけど…。 ・6年生として、何とかしないと。 <p>○佑大くんが「ぼくたちのいるところが学校なら、このバスの中も学校だね。」と言ったとき、史哉はどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何とかしないと。 ・自分たちが学校をつくっていこう。 ・ぼくたちが学校を守っていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心情円を使って「悲しい、つらい」気持ちを青色で表現することで、史哉の気持ちを視覚的に捉えることができるようにする。 ・心情円が全て青色ではなく、少しピンク色のある児童にその理由を問うことで、「何とかしないといけないと考える」気持ちもあることに気付くことができるようにする。 ・「でも、どうしようもないよね?」「6年生だからって、何とかできるわけではないよね?」と切り返しの発問をすることで、6年生としての役割に気付くことができるようにする。 ・もう1度心情円を使って「悲しい、つらい」気持ちを青色で表現することで、史哉の気持ちを視覚的に捉えることができるようにする。 ・1回目と2回目の心情円を比較し、その理由を問うことで、史哉の気持ちの変化を捉えることができるようにする。
<p>3 本時のまとめをする。</p>	<p>○大切だと思ったことを自分の言葉でノートにまとめましょう。</p>	
<p>よりよい学校をつくっていくためには、みんなで協力し、自分の役割に責任をもって行動しようとするのが大切である。</p>		

<p>4 今までの自分について振り返る。</p>	<p>○今までに、よりよい学校をつくっていかうとがんばったことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で思うようにいかなかったこともたくさんあるけど、運動会に代わる行事を自分たちで創り上げることができた。 ・これからも全校のみんなが楽しく過ごせるように考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生を迎える会や大和スポーツ大会の写真を提示し、今までによりよい学校をつくっていかうとしたことを振り返ることができるようにする。 ・導入から、コロナの影響で思うようにいかなかったことや、コロナに関係なく自分たちに足りないことがあることも想起させ、これからのことも考えることができるようにする。
<p>うまくいかないこともあるかもしれないけれど、みんなで協力して自分たちの学校をつくっていきたい。</p>		
<p>5 大和小学校を卒業した先輩からのメッセージを聞く。</p>	<p>○大和小学校を卒業した先輩からみなさんにメッセージをもらっています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メッセージを聞くことで、自分たちで学校をつくっていかうとすることがよりよい中学校生活にもつながるということに気付き、卒業まで学校のためにがんばりたいという気持ちを高めることができるようにする。
<p>評価</p>	<p>今までに自分が取り組んだことや考えたことを引き合いに出したり、自分だったらどうするか想像したりして話すことができたか。</p> <p>(自分との関わりで考えることができたか)</p> <p>史哉の気持ちの変化を捉えることを通して、よりよい学校をつくっていくのは自分たち自身であることに気付き、自分の役割や責任について考えたことを話し合うことができたか。</p> <p>(多面的・多角的に考えることができたか)</p> <p>よりよい学校をつくっていくのは自分たち自身であることに気付き、自分の生活を振り返ったり、これからの自分の在り方について考えたことを話したり書いたりすることができたか。</p> <p>(道徳的価値に係る考えに深まりが見られたか)</p>	

6 板書計画



7 資料



〈よい学校像についての掲示〉



〈ふり返りで掲示した行事の写真〉

8 成果と課題

① 主体的な学び

事前に「よい学校像」について考える機会があった際に、理想の学校像について一人一人の思いを明確にしたことで、児童の願いと、それを阻んでいることを考えることができた。また、自分と登場人物の状況に関連付けて考えることもできた。しかし、児童が考えたいことを本時のめあてに設定することは難しかったように思う。児童がより主体的に学習することができるように、事前学習や導入を工夫したい。

② 対話的な学び

心情円を使って「悲しい、つらい」気持ちを青色で表現することで、主人公の気持ちを視覚的に捉えることができた。授業では、心情円が全て青色ではなく、少しピンク色のある児童が全員であった。そこで、ピンク色の理由を問うことで、「何とかしないといけないと考える」気持ちもあることに気付くことができた。また、1回目と2回目の心情円を比較し、その理由を問うことで気持ちの変化を捉えることもできた。しかし、2回目に心情円で主人公の気持ちを表現した際、どんな気持ちが増えたのかをもう少し深く話し合えると、より捉えさせたい価値に迫ることができたのではないかと考える。

③ 深い学び

1年生を迎える会や大和スポーツ大会の写真を提示したり、本時の導入で新型コロナウイルス感染症の影響のため思うようになかったことや、それとは関係なく自分たちに足りないことがあることも想起させたりすることで、今までによりよい学校をつくっていかうとがんばったことや、これからのことを考えさせることができた。

大和小学校を卒業した先輩からのメッセージを聞くことで、自分たちで学校をつくっていかうとすることがよりよい中学校生活にもつながるということに気付き、卒業まで学校のためにがんばりたいという気持ちを高めることができた。

大和小学校の6年生としての7ヶ月間を振り返り、今年度はコロナ禍にあつてうまくいかないこともたくさんあったが、それでも仲間と知恵を出し合って考えることで様々な児童会活動を実現させたという思いをもつことができた。自分の今までを振り返ることは、児童にとって大切な時間であったので、時間配分を考え、振り返りの時間をもう少し確保したい。

第4学年 教材名「新次のしょうぎ」

(A 正直, 誠実) 日本文教出版

令和3年10月21日(木) 5校時 指導者 小林 達也

- 1 主題名 「正直はだれのため」 A「正直, 誠実」
教材名 「新次のしょうぎ」 (日本文教出版)

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

この内容項目は、過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活することに関するものである。

過ちや失敗は誰にでも起こり得ることである。そのときに、自分自身が責められたり不利な立場に立たされたりすることを回避しようとしてうそを言ったり、ごまかしたりすることがあるが、そのことが自分自身をも偽ることにつながることに気づかせたい。その上で、正直であることの快適さを自覚できるようにするとともに、過ちを犯したときには素直に反省し、そのことを正直に伝えるなどして改めようとする気持ちを育みたい。そして、正直であるからこそ明るい心で伸び伸びとした生活が実現できることを理解し、元気よく生活できるようにしたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、男子3名・女子3名、計6名の学級である。言われたことは素直に受け止め、すぐに行動することができる。また、積極性があり、学習時間の簡単な問いかけに対しては進んで発表をしようとしている。しかし、自分の都合だけを考えて行動したり、できていないことをできているようにごまかしたりする様子が見られる児童もいる。それを指摘したときは過ちを認められるが、本当の意味で反省し、改善しようとしているかという点、それは難しい様子である。

今回の教材を通して、正直で明るく生活できるようにするとともに、過ちを認めて反省し、今後の努力につながられるような気持ちを育みたい。自分自身をごまかすことのつらさや、他者からの信頼を失う怖さに気づき、今後の生活を改善できるようにしたい。

また、自分と友達の考えを比べて考えたり、友達の意見と自分の意見をつなげながら発表したりすることは経験が不足している。そのため、特別な教科道徳以外の教科の学習や話し合い活動でもこれらの経験を多く積むことができるようにしている。そして、児童の対話で学習が進行していく中で思考・判断・表現に関わる資質・能力が高まる授業展開をねらいたい。

(3) 教材について

〈教材の概要〉

主人公の新次は伊三郎おじさんと自信のある将棋の勝負をすることになる。その勝負の最中に伊三郎おじさんが席を外したとき、新次は自分の桂馬を有利な位置に動かしてしまう。そのことにおじさんは気づかないまま勝負は新次の勝利となるが、新次は心から喜べないでいた。そこに別の人から勝負を挑まれるが、心が晴れないまま臨んだ結果、新次は負けてしまう。「もう一番」と言われた新次だが、その場から逃げ出し、道中で涙を流してしまう。

本教材の中で、将棋に勝つために「つい」不正を働いてしまった新次は、自分の過ちに後悔し、

涙を流す。「つい」不正を働いてしまったときの新次の心の葛藤について話し合ったり、自分の経験を振り返ったりすることで、こうした過ちは誰にでも起こり得ることだということに気づかせたい。また、その葛藤に負けて不正をした中での勝利に動揺している新次の姿や涙を流した理由について話し合うことを通して、葛藤を乗り越え、自分のために正直に生きることが明るく楽しい生活につながるというねらいにせまることができるようにしたい。

3 研究テーマとの関連

(1) 「主体的・対話的で深い学び」において期待する児童の姿

	期待する児童の姿
主体的な学び	今までの自分の経験を引き合いに出したり、主人公の気持ちを想像したりしながら、うそやごまかしをしそうな時やしてしまった時に大切なことを考えることを通して、より多面的・多角的に正直に生きることについて捉えるために進んで考えたことを話したり書いたりして、表現している。(自分との関わりで考える)
対話的な学び	新次の心の天使と悪魔のささやきを想像しながら、新次の心の葛藤を多面的・多角的に捉えることができる。 「考える道德の視点」や思考ツールを活用しながら、解決のために進んで意見を話したり、他の児童の意見を聞きながら答えたりしている。 (多面的・多角的に考える)
深い学び	これまでの自分と本時で考えたことを比べたり、切り返しの発問でゆさぶられたりすることを通して、うそやごまかしをしそうな時やしてしまった時に大切なことの意味を深めている。 (自己の生き方について考える)

(2) 「主体的・対話的で深い学び」に向けての工夫

① 主体的な学び（自分との関わりで考える）

- ・導入において、今までにごまかしたりうそをついたりしたことがあるか、そして、その時どのような気持ちになったかを問う。そうすることで、本時の主題に焦点を当てるとともに、児童が本時で考えたいめあてにつながられるようにする。また、終末部分において今までの自分と本時に学習したことを重ね合わせて考えられるようにする。
- ・新次の気持ちを想像する際には、道德ノートを活用し、自分の考えを書いて表現し、整理できるようにする。

② 対話的な学び（多面的・多角的に考える）

- ・「考える道德の視点」（自分にとって、相手にとって、みんなにとって、時間が経つと）を活用することで、本時で捉えさせたい道德的価値にせまる話し合いをまとめるための一助とする。
- ・jamboard内で思考ツールを使用し、似ている意見や異なる意見、新たな疑問などを交流させることで、児童同士の考えが深まるようにする。

③ 深い学び（自己の生き方について考えたことを話したり書いたりしている）

- ・本時で気付いた道德的価値を自分のこれまでの経験と比較しながら振り返ることで、うそやごまかしをしそうな時やしてしまった時に大切なことの意味を深める。
- ・児童がこれまでの自分を振り返る際には、道德ノートを活用し、今後の自分にも目を向けて考えを深めることができるようにする。

4 ねらい

うそやごまかしをしそうな時やしてしまった時に大切なことを考える中で、うそやごまかしをしないように心がけ、してしまっても、素直に改めようとする気持ちの大切さに気づき、正直に明るく生活していこうとする心情を育てる。

5 展開

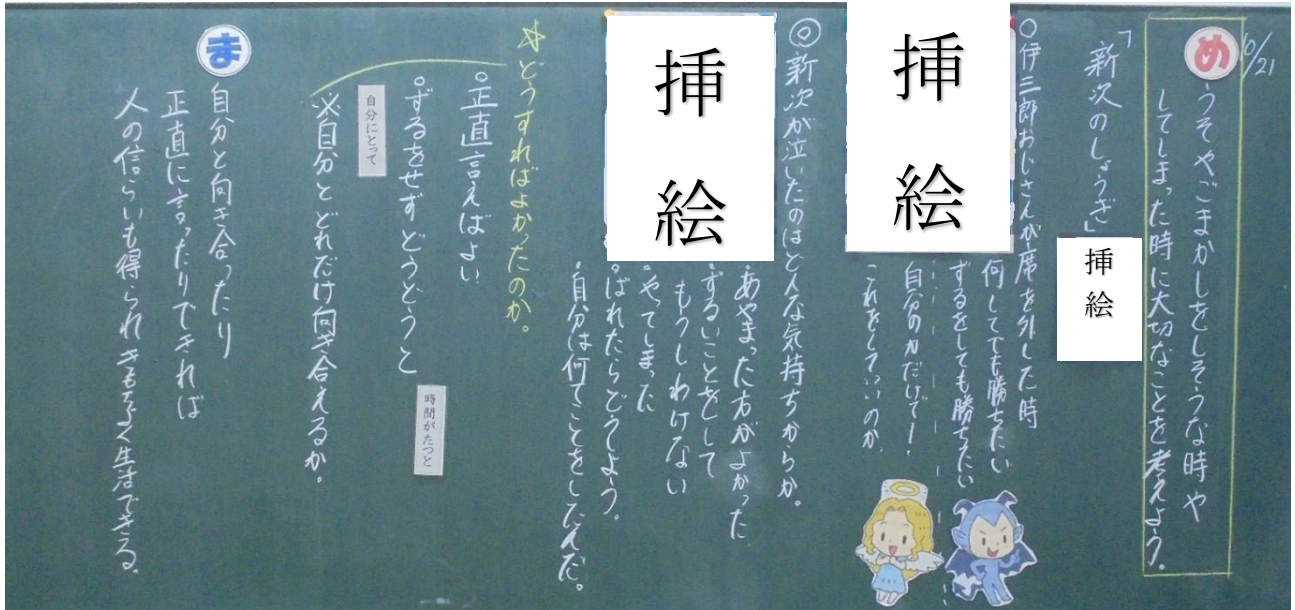
学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてを考える。</p>	<p>○ごまかしたり、うそをついたりしたことはありますか。また、その時どのような気持ちになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怒られるのが怖くてうそをついた。 ・やったことをやっていないとごまかしたことがある。 ・正直に言えば良かったと思った。 ・とりあえずばれなかったから良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いけないうそをついたりごまかしたりしたことはあるか」と「そのときどんな気持ちになったか」の事前アンケートをとった結果を共有することで、誰にでも起こり得ると認識することができるようにする。 ・ごまかしてもいい場合もあるが、本時で考えるのはしてはいけない場合についてであることをおさえる。 ・「もやもやした気持ちにならずに生活できる方が良いですよ」と問いかけることで、本時のめあてに迫れるようにする。
<p>うそやごまかしをしそうな時やしてしまった時に大切なことを考えよう。</p>		
<p>2 「新次のしょうぎ」を読んで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材全体を簡単に振り返る。 ・涙を流しながら逃げ帰った時の新次の心を想像する。 	<p>○伊三郎おじさんが席を外した時の新次の心のはどうだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動かしてはだめだ。 ・ずるはよくない。 ・ばれなければいい。 ・何をしても勝てばいい。 <p>◎新次が帰りながら涙を流したのはなぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ずるいことをしなければよかった。 ・ずるいことをして勝っても心からうれしいとは思えない。 ・ごまかさずに、あやまればよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新次の心を想像しにくい場合は天使と悪魔に例えて迷いを問うことで、ずるはよくない心とべつにいいだろうという心のどちらも想像できるようにする。 ・Jamboard を活用して話し合いの経過を可視化することで、積極的に友達の考えに質問をしたり自分の考えと関係づけたりできるようにする。 ・新次の気持ちを想像した理由を話すときは、自分の経験や題材に描かれていることと

		<p>結び付けて話すよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そんな気持ちにならないためにはどうすればよかったと思うか」と問うことで、本時の捉えさせたい価値の理解を深められるようにする。 ・「正直に言えばおじさんに怒られるかもしれないが、それでも正直にあやまるのはなぜか」と切り返すことで、「自分にとって」や「時間が経つと」の視点に立って考えられるようにする。 ・話し合っ自分がか大切だと考えたことを「大和心の木カード」に書くよう指示する。
<p>本当にしてしまっ良いのか自分と相談したり、してしまっでも、ごまかさずにまちがいを認めて素直にあやまったりできれば明るく気持ちよく生活することができる。</p>		
<p>3 今までの自分を振り返る。</p>	<p>○これまでの自分をふり返って、今日考えたことと比べてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳ノートに書く際には本時で気づいた価値を使って考えるよう助言する。 ・児童の発言に問い返しをすることで、今後の自分にも目を向けられるようにする。
<p>悪いと思っいてもついやってしまったり、悪いと思っでもすぐに謝れないことがあったりしたが、ずっともやもやしてたので、これからは悪いと思ったらやらないようにして、もしやってしまっでもすぐにあやまっって次からはやらないように直して気持ちよく生活したい。</p>		
<p>評価</p>	<p>今までの自分の経験を引き合いに出したり、主人公の気持ちを想像したりしながら、うそやごまかしをしそうな時やしてしまっ時に大切なことを考えることができたか。</p> <p style="text-align: center;">(自分との関わりで考えることができたか)</p> <p>「考える道徳の視点」や思考ツールを活用しながら、主人公の後悔の気持ちを想像することを通して、ごまかさずに正直に言ったりまちがいを認めて素直にあやまったりすれば明るく気持ちよく生活できることに気づいたか。</p> <p style="text-align: center;">(多面的・多角的に考えることができたか)</p> <p>これまでの自分と本時で考えたことを比べ、これから実際に起こり得る場面について、学習したことを生かして話し合うことで、うそやごまかしをしそうな時やしてしまっ時に大切なことの理解を深めるこ</p>	

とができたか。

(道徳的価値に係る考えに深まりが見られたか)

6 板書計画



7 資料



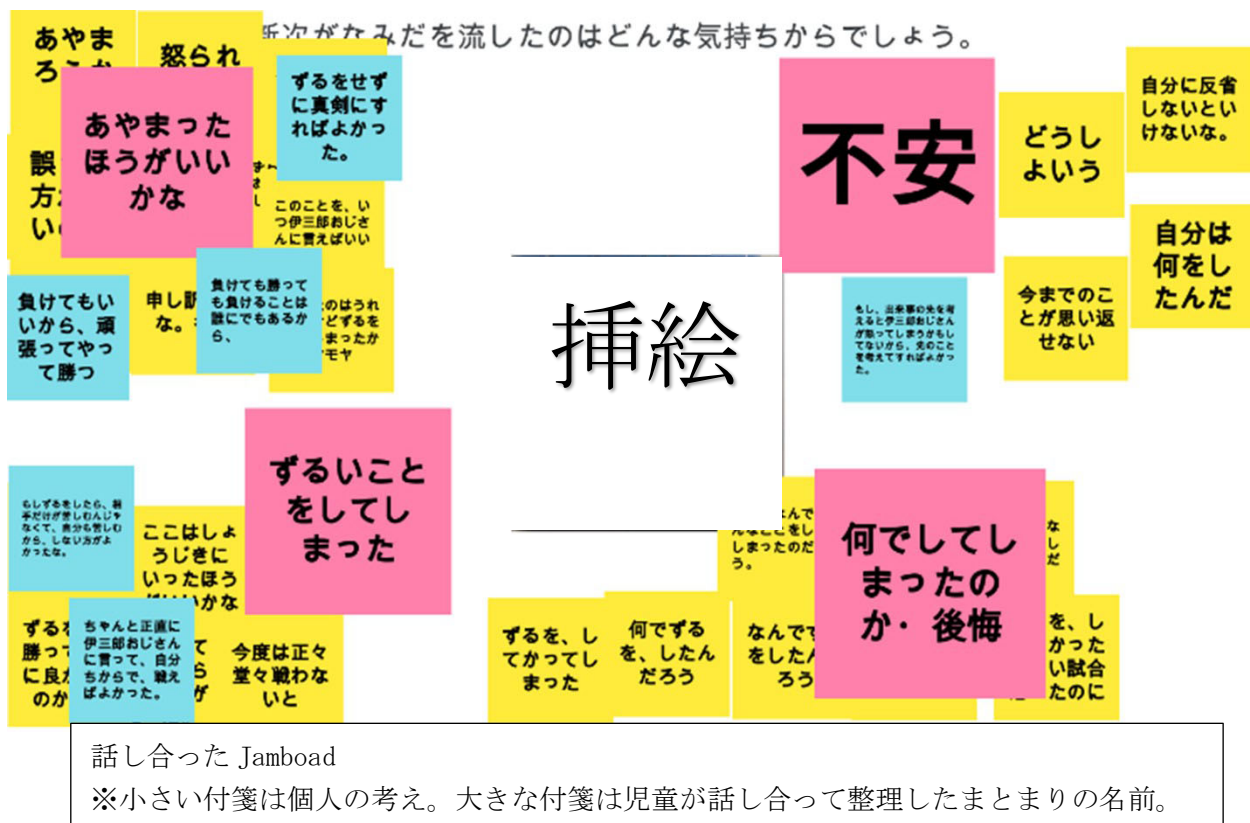
大型スクリーンを使用した話し合いの様子



道徳ノートを活用した振り返りの様子



話し合いの経過を見ながら付箋を動かしたり、まとまりの名前を入力したりする様子



8 研究の成果と課題

①主体的な学び

事前に行ったアンケート結果をもとに今の自分達について話し合うことで、うそやごまかしをしまいそうな時やしてしまった時に大切なことは何かを考えるという本時のめあてにスムーズに入ることができた。しかし、「良い方法があったら知りたくないか。」という問いかけは、気持ちを考える道徳においては必要のない発問だったと考える。さらに、資料導入として、実物の将棋を用いて状況を捉えやすくするなどの工夫も考えられた。

また、大型スクリーンを使用して児童同士で話し合う時間を設定することで主体的に意見を出しながら話し合うことができた。環境を整備して活用できるようにすることで、主体的な学びの推進力となった。

②対話的な学び

思いや考えを Jamboard を活用し交流させることで児童同士の対話が活発になり、多面的・多角的な意見交換が行われた。そこで似た考えをグルーピングしていくことで、本時で捉えさせたい価値に迫ることができた。しかし、付箋に書かれたことに対して深く掘り下げる時間をとることは難しかった。一つの意見に問い返すことが対話のきっかけとなるような手法については今後の授業で取り組みたい部分である。そして、児童同士をつなぐ問いかけや切り返しを状況に応じて使えるようにしていきたい。

③深い学び

主発問のあと、「どうすればよかったのか。」と発問したことで、児童は自分だったらどうするかを考えることができていた。だが、まとめの言葉が内容項目とずれてしまった部分があったので、児童の言葉でまとめを作るときでも、教師としては内容項目との整合性を確認しておく必要があった。

第5学年 教材名「折れたタワー」

(B 相互理解, 寛容) 日本文教出版

令和3年10月21日(木) 5校時 指導者 的場 功基

- 1 主題名 「広い心」 B「相互理解, 寛容」
教材名 「折れたタワー」 (日本文教出版)

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

この内容項目は、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することに関するものである。人の考えや意見は多様であり、それが社会をつくる原動力にもなる。そのため、多様さを相互に認め合い理解しながら高め合う関係を築くことが不可欠である。しかし、自分の立場を守るため、つい他人の失敗や過ちを一方向的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりすることがある。自分に対して謙虚であるからこそ他人に対して寛容になれることから、寛容さと謙虚さが一体のものとなったときに、広い心が生まれ、それが人間関係を潤滑にすると考える。相手の立場で相手の気持ちを考え、よりよい判断や行動をしようとするのが大切であるということに気付き、何事も相手の立場になって、広い心で受け止め、接していこうとする心情を育てたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、男子5名・女子6名、計11名の学級である。困ったらすぐに助け合ったり、ほとんど毎日休み時間には全員で鬼ごっこをしたりするなど、進んで友達と関わろうとする姿が多く見られる。また、自分の考えをしっかりともち、発言したり行動したりすることができる児童も多い。しかし、相手の気持ちを考えずに思ったことをそのまま口に出してしまうことや、考え方が近い者同士の仲間意識が強くなり、異なる意見は受け入れないこともある。そこで本教材で学習することを通して、許せないことがあったとき、どのようなことが大切なのかを考えさせることで、自分にも失敗はあることを理解したうえで、相手の立場に立って相手の気持ちを考え、よりよい判断や行動をしようとするのが大切であるということに気付き、何事も相手の立場になって、広い心で受け止め、接していこうとする心情を育てたい。

(3) 教材について

〈教材の概要〉

ひろしは給食当番でマスクを忘れ、そのことをのりおに強く責められる。数日後、のりおに一生懸命に作った作品を壊されてしまい、悔しい思いがこみあげてくる。しかし、うつむいているのりおの姿を見て、「自分にも失敗はある」と気付き、相手の立場に立って相手の気持ちを考え、のりおを許す話である。

自分が失敗したときに強い口調で許そうともしなかったのりおに、大事な作品を壊されてしまったときのひろしの立場は、本学級の児童にも共感しやすい。本教材は、ひろしの立場になって考えることで、自分にも失敗はあることを理解したうえで、相手の立場に立って相手の気持ちを考え、よりよい判断や行動をしようとするのが大切さに気付くことができるものである。

3 研究テーマとの関連

(1) 「主体的・対話的で深い学び」において期待する児童の姿

	期待する児童の姿
主体的な学び	のりおに対してのひろしの思いを自分のこととして考え、「友達を許すことができなかつたとき、自分も相手も嫌な思いをしてしまったことがある。」など、過去の経験やそのときの気持ちと結び付けながら話したり書いたりしている。 (自分との関わりで考える)
対話的な学び	のりおに対して、許せるひろしと許せないひろしの視点から考え、その中でも許すことができたひろしの思いを「わざとではないから許せる。」「自分もマスクを忘れてしまった。」など、多様な視点から考えることができる。 (多面的・多角的に考える)
深い学び	自分にも失敗はあることを理解したうえで、相手の立場に立って相手の気持ちを考え、よりよい判断や行動をしようとするものの大切さに気付き、自分の生活を振り返ったり、これからの生き方について考えたりしている。 (自己の生き方について考える)

(2) 「主体的・対話的で深い学び」に向けての工夫

①主体的な学び（自分との関わりで考える）

- ・Google フォームを活用し、事前にアンケートをとることで、誰にでも許せないことがあることや、それは人によって違うということに気付くことができるようにする。また、許せなかつたときの思いを振り返ることで、子供の願いをめあてにつなげることができるようにする。
- ・過去の経験やそのときの気持ちと結び付けて考えることで、のりおに対してのひろしの思いを自分のこととして考えることができるようにする。

②対話的な学び（多面的・多角的に考える）

- ・児童の発言に合わせた問い返しを行っていくことで、ひろしの思いを多様な視点から考えることができるようにする。
- ・Google スプレッドシートを活用し、児童同士で発言をつなげていくことで、自分の意見と他の児童の意見を比べながら考えることができるようにする。

③深い学び（自己の生き方について考えたことを話したり書いたりしている）

- ・事前のアンケートや終末の振り返りで、「許せないとき」や「許せたとき」の両方の立場を、自分の経験から振り返ることができるようにする。
- ・アンケート結果を終末でも振り返ることで、これからの自己の生き方についても考えることができるようにする。

4 ねらい

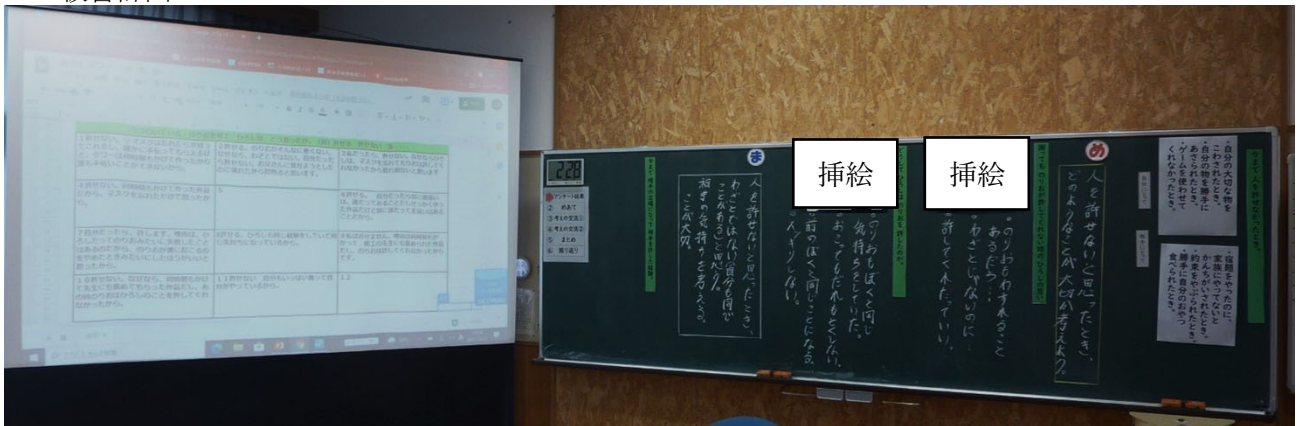
許せないことがあつたとき、どのようなことが大切なのかを考える中で、自分にも失敗はあることを理解したうえで、相手の立場に立って相手の気持ちを考え、よりよい判断や行動をしようとするものが大切であるということに気付き、何事も相手の立場になって、広い心で受け止め、接していこうとする心情を育てる。

5 展開

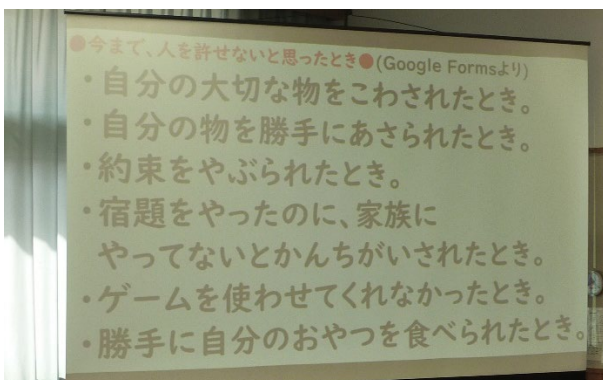
学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをもつ。</p>	<p>○アンケートの結果を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を許せないと思うときは、どんなときですか。 ・大切な物を壊されたとき。 ・約束をやぶられたとき。 ・悪口を言われたとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google フォームのアンケート結果を提示し、誰にでも許せないときがあることや、人によって許せることや許せないことが違うということに気付けるようにする。 ・許せなかったときのことを振り返ることで、子供の願いをめあてにつなげる。
<p>許せないことがあったとき、どのようなことが大切なのか考えよう。</p>		
<p>2 「折れたタワー」を読んで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のりおが許してくれないときのひろしの思いを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・のりおにタワーを壊されたときのひろしの思いを考える。 	<p>○謝ってもものりおが許してくれないとき、ひろしはどんなことを思ったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そんなに言わなくてもいいのに。 ・謝っているから許してほしい。 ・申し訳ない。 <p>◎うつむいているのりおを見て、ひろしはどんなことを思ったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いがこもっているタワーだから、壊されて悔しい。 ・マスクのときは許してくれなかったから、僕も許したくない。 ・わざとではないから仕方ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・納得いかないと思っているひろしと、申し訳ないと思っているひろしの両方を捉えさせる。 ・「のりおは悪い人だね。」「のりおは間違っているの?」などと問い返しをすることで、ひろしに対するのりおの思いにも気づくことができるようにする。 ・Google スプレッドシートで意見を共有することで、友達の見解と比べながら考えるができるようにする。 ・「わざとではないよ?」「許さなくていいのではないか。」などと問い返しをすることで、許せるひろしと許せないひろしの両方の思いを考えることができるようにする。 ・「どうしてひろしは、のりおを許すことができたの?」と問うことで、まとめへの焦点化を図る。
<p>許せないことがあったときは、自分にも失敗はあることを理解したうえで、相手の立場に立って相手の気持ちを考え、よりよい判断や行動をしようとすることが大切である。</p>		

<p>3 今までの自分について振り返る。</p>	<p>○今まで、相手の立場になって相手を許した経験がありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作った物を壊されたとき、悔しかったけどわざとじゃないって分かっていたから許した。その後も仲良く遊ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を振り返ることで、これからの自分についても考えることができるようにする。 (今の自分ならどうか。)
<p>これからは、何事も相手の立場になって、広い心で受け止め、接していきたい。</p>		
<p>評価</p>	<p>のりおに対してのひろしの思いを自分のこととして考え、過去の経験と結び付けながら話したり書いたりすることができたか。</p> <p>(自分との関わりで考えることができたか)</p> <p>のりおに対して、許せるひろしと許せないひろしの視点から考え、その中でも許すことができたひろしの思いを多様な視点から考えることができたか。</p> <p>(多面的・多角的に考えることができたか)</p> <p>自分にも失敗はあることを理解したうえで、相手の立場に立って相手の気持ちを考え、よりよい判断や行動をしようとする大切さに気づき、自分の生活を振り返ったり、これからの生き方について考えを深めたりすることができたか。</p> <p>(道徳的価値に係る考えに深まりが見られたか)</p>	

6 板書計画



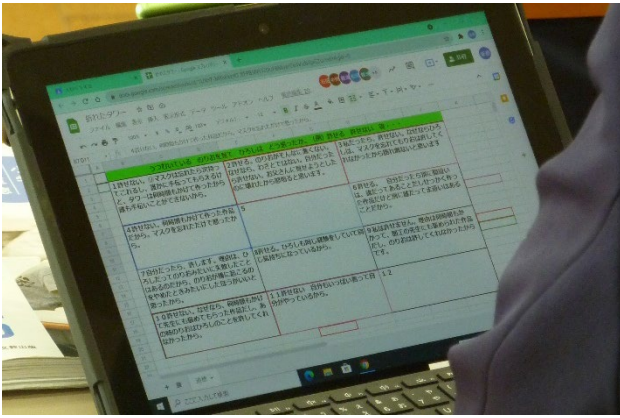
7 資料



<アンケート結果>



<ペアでの話し合い>



<スプレッドシートで考えを共有>



<質問タイム>

8 研究の成果と課題

① 主体的な学び

事前にアンケートをとり、その結果を授業の導入で話し合うことで、誰にでも許せないことがあることや、それは人によって違うということに気づくことができた。また、そこから自分たちでめあてを考えることもできた。しかし、「どうなりたいのか」という児童の願いをめあてにつなげることができなかつたので、アンケート結果の内容についてそのときとった行動や、そのときの気持ち等を語らせる必要があったと感じる。

② 対話的な学び

スプレッドシートを活用することで、全児童が考えを表現することができた。また、画面を見るだけで互いの考えを知ることができた。そのため、児童がスプレッドシートの内容を補足するように促すだけで活発に話し合わせることができ、次々と考えを伝え合う姿が見られた。互いの考えが分かるので、自分の考えに似ている人と共有したり、違う考えの人に質問をしたりすることができた。しかし、児童同士で質問し合う場面では、端的に質問するということができなかったため、「何を聞かれているのか」「何を答えればいいのか」等が曖昧になり難しさも感じた。人の考えと比べるということは当たり前になるようになってきたので、補助発問や切り返し発問が児童の発言から生まれるようにしていきたい。また、「ひろしがマスクを忘れていなかったら、のりおのことを許せていないですか？」という良い質問があったので、次の展開を考えて意図的に広げられるよう、コーディネートしていきたい。

③ 深い学び

どの場面でも、常に意識させている過去の経験やその時の気持ちと結び付けて考えたり、「自分だったら」と自分のこととして考えたりすることができていた。教師が「過去に同じようなことがあったの?」「自分だったらどう思う?」等と聞かなくても、自然とそのように考えたり発表したりできるようになったことは大きな成果だと感じる。また、授業の導入や振り返りでは「許せないとき」「許せたとき」の両方の立場を自分の経験から振り返ることができた。しかし、まとめの部分があっさり流れすぎてしまった。めあてに対して自分の言葉でまとめを書いたあと、その根拠となる考えをもっと語らせるとよかった。また、場面や実態に応じた ICT ツールのより効果的な活用方法を検証していきたい。

〈 研究主題 〉

自他のよさを認め合い 自己の生き方をひろげる児童の育成

令和2・3年度の2年間の学びを整理すると…

大和心の木 活用
自分の言葉で
まとめと振り返り

こうなりたい！
～子どもの願いがめあてに～

主体的な
学び

振り返れば心の足跡
～学びを生活に結び付けて～

深い学び

道徳の
授業づくり

ICT 活用
Form s でアンケート

ICT 活用
Jamboard・スプレッドシートで
話し合い

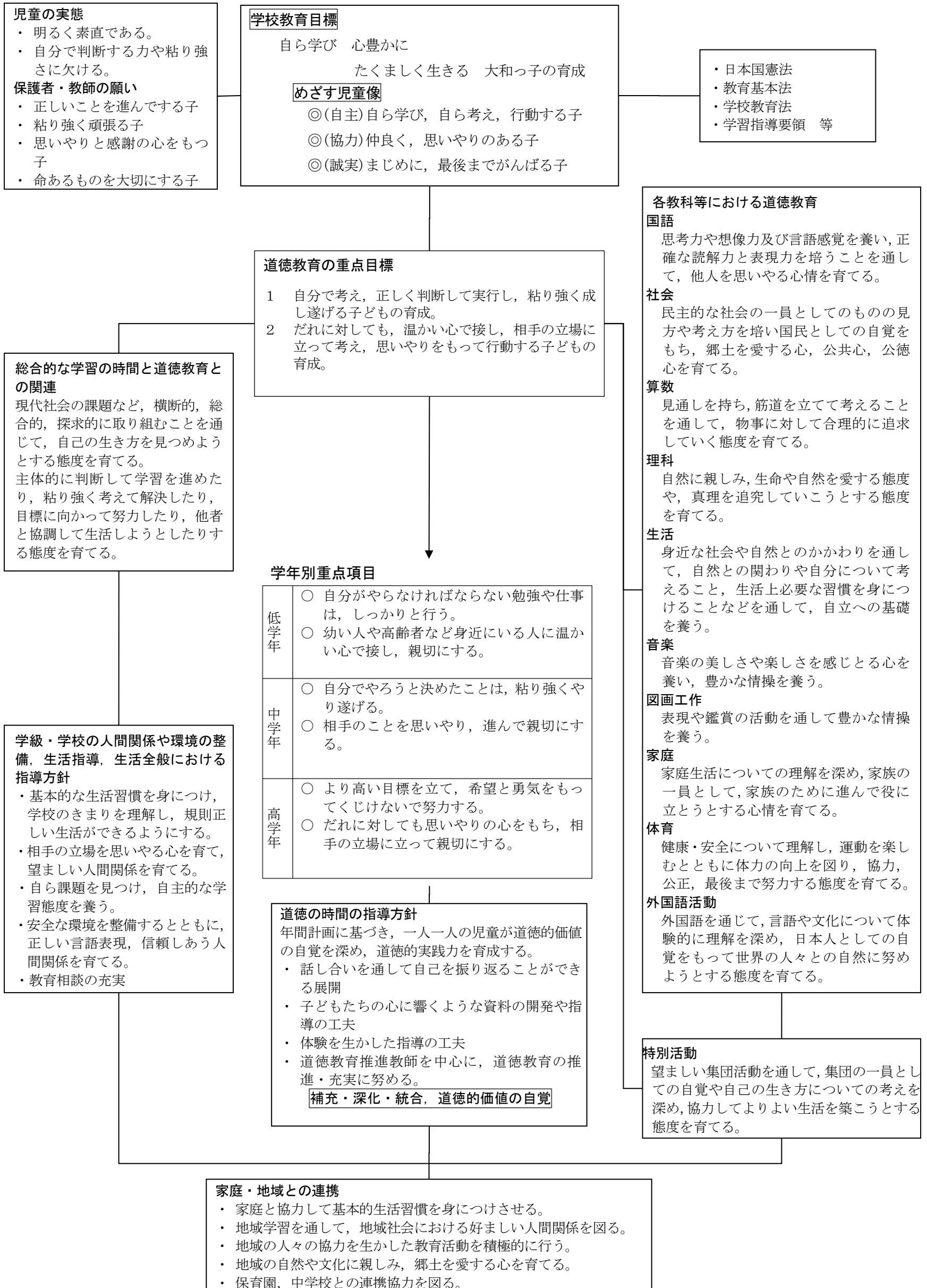
対話って楽しい！
～広がる考え 深まる考え～

対話的な
学び

【資料】

道徳教育全体計画 (R3)

吉備中央町立大和小学校



どうとく

道徳アンケート【下学年】

ねん なまえ

() 年 名前 ()

ばんごうに ○をつけましょう。

1	どうとく じかん 道徳の時間は すきですか。	4 . . . あてはまる 3 . . . だいたい あてはまる 2 . . . あまり あてはまらない 1 . . . まったく あてはまらない
	【わけ】	
2	どうとく じかん せいかつ やく た 道徳の時間は 生活に 役に立つと おもいますか。	4 . . . あてはまる 3 . . . だいたい あてはまる 2 . . . あまり あてはまらない 1 . . . まったく あてはまらない
	【わけ】	
3	どうとく じかん じぶん 道徳の時間に 「自分だったら」と かんがえていますか。	4 . . . よく かんがえている 3 . . . ときどき かんがえている 2 . . . あまり かんがえていない 1 . . . まったく かんがえていない
4	どうとく じかん 道徳の時間に 「なるほど」と おもったことが ありますか。	4 . . . よく おもう 3 . . . ときどき おもう 2 . . . あまり おもわない 1 . . . まったく おもわない
5	どうとく じかん 道徳の時間に 「これからは」と かんがえていますか。	4 . . . よく かんがえている 3 . . . ときどき かんがえている 2 . . . あまり かんがえていない 1 . . . まったく かんがえていない
6	じぶん 自分には いいところがあると おもいますか。	4 . . . よく かんじる 3 . . . ときどき かんじる 2 . . . あまり かんじない 1 . . . まったく かんじない
7	ともだち 友達には いいところがあると おもいますか。	4 . . . よく ある 3 . . . ときどき ある 2 . . . あまり ない 1 . . . まったく ない

道徳アンケート【上学年】

()年 名前()

番号に○をつけましょう。

1	道徳の時間は、好きですか。	4 . . . 当てはまる 3 . . . だいたい当てはまる 2 . . . あまり当てはまらない 1 . . . 全く当てはまらない
	【理由】	
2	道徳の時間は、生活に役に立つと 思いますか。	4 . . . 当てはまる 3 . . . だいたい当てはまる 2 . . . あまり当てはまらない 1 . . . 全く当てはまらない
	【理由】	
3	道徳の時間に「自分だったら」と 考えていますか。	4 . . . よく考えている 3 . . . 時々考えている 2 . . . あまり考えていない 1 . . . 全く考えていない
	【理由】	
4	道徳の時間に「なるほど」と 思ったことがありますか。	4 . . . よくある 3 . . . 時々ある 2 . . . あまりない 1 . . . 全くない
	【理由】	
5	道徳の時間に「これからは」と 考えていますか。	4 . . . よく考えている 3 . . . 時々考えている 2 . . . あまり考えていない 1 . . . 全く考えていない
	【理由】	
6	自分には、いいところがあると 思いますか。	4 . . . よく感じる 3 . . . 時々感じる 2 . . . あまり感じない 1 . . . 全く感じない
	【理由】	
7	友達には、いいところがあると 思いますか。	4 . . . よくある 3 . . . 時々ある 2 . . . あまりない 1 . . . 全くない
	【理由】	

◆共同研究者

<令和2年度>

穠山 千秋	池田 祐加	井田 美奈	井上 和子	今村 茉由
宇江 賢	片上奈緒美	小林 達也	米山 知子	齋藤 則彦
佐藤由美子	佐溝美和子	堂中 彩	中山 法子	藤原 陽子
的場 功基	MARIE ELIZABETH NORRIS	村木 賢二		

<令和3年度>

池田 祐加	井田 美奈	今村 茉由	宇江 賢	木村 雅子
黒田由美子	小林 達也	米山 知子	齋藤 則彦	佐藤由美子
塩見 祐子	武知 幸子	堂中 彩	中山 法子	西田佐和子
藤原 陽子	的場 功基	MARIE ELIZABETH NORRIS	村木 賢二	
弓削いづみ				



